



居場所
ハウス

居場所ハウスの歩み

東日本大震災の被災地・大船渡市末崎町の居場所づくりの10年



特定非営利活動法人・居場所創造プロジェクト

2024年3月

目次

刊行にあたって（鈴木軍平）	1
祝辞（新沼眞作）	2
1：写真にみる居場所ハウス	7
2：東日本大震災後の大船渡市末崎町	17
3：居場所ハウスオープンの経緯	25
「Ibasho」が目指すこと（清田英巳）	26
居場所ハウス（小澤惣一）	29
居場所ハウス創設 10 周年を祝して：オープンまでの物語（内出幸美）	30
4：居場所ハウス 10 年の歩み	33
2013（平成 25）年の出来事	34
2014（平成 26）年の出来事	38
2015（平成 27）年の出来事	42
2016（平成 28）年の出来事	46
2017（平成 29）年の出来事	50
2018（平成 30）年の出来事	54
2019（平成 31・令和元）年の出来事	58
2020（令和 2）年の出来事	60
2021（令和 3）年の出来事	62
2022（令和 4）年の出来事	64
2023（令和 5）年の出来事	66
スタッフ日誌にみる 10 年の歩み	70
東日本大震災伝承紙芝居「ワンコとともに救われた命」	74
5：居場所ハウスへの声	79
編集後記（田中康裕）	94
お礼の言葉（鈴木軍平）	96

刊行にあたって

特定非営利活動法人・居場所創造プロジェクト理事長 鈴木軍平

このたび、居場所創造プロジェクトが2013年3月8日岩手県知事より認可・登記されてここに設立十周年記念を迎えるにあたり、これまで町内外の皆様から賜りました、特に地域の皆様方のご理解のもと温かいご厚情ご支援があればこそであり、衷心より厚く御礼申し上げますとともに、役職員を代表しご挨拶を申し上げます。改めて当法人を立ち上げた10年前を振り返りますとき、歳月の過ぎる速さに感慨ひとしおのものがございます。

「居場所ハウス」は、東日本大震災の被災を受けた地域の復興拠点とし、末崎町の高齢者が地域の中で役割を担い、2011年の東日本大震災後大きく変化した人と人とのつながり及びコミュニティの復活を支援するため建設されたものです。2013年6月13日にオープンしてから2022年度までの間、63,898人と多くの来場者がありました。さらに復興に関する功績が認められ、復興庁から2018年に感謝状、2020年に復興顕彰、読売新聞社から2020年に読売福祉文化賞が授与されたことは誠に嬉しい限りであります。

これも偏に、これまで「居場所ハウス」に様々なかたちで関わってくださった末崎町内外の個人、各種団体、企業の皆様のご支援の賜物と、衷心より厚くお礼を申し上げる次第です。

さて、「居場所ハウス」では、地域の高齢者が中心となり、一人ひとりがそれぞれの役割を担いながら、コミュニティづくり及び健康づくり、さらに、地域文化の継承など、地域包括的事業を推進しながら、生活環境の改善・充実及び地域活性化を目指して参りました。こうした活動の歩みを記録しこれからの活動・運営の糧とすべくお話をいただき、このたび地縁団体末崎町公益会様の助成により、設立10周年記念誌を編纂することとなったところです。

今後は、加速する人口減少・少子高齢化を見すえながら、楽しかった・また来てみたいと思えるよう「ふれ合い」の機会を創出し、日常生活が少しでも豊かになるための一助とするとともに、日常の健康づくり、特に、心と体のケア・孤立の防止などに積極的に傾注し、地域に根差し親しまれ、気軽に立ち寄れる「居場所ハウス」を目指し、積極的に活動・運営して参りますので、引き続き、より一層のご指導ご厚情を賜りますよう切にお願い申し上げます。



「居場所ハウス」基本情報

運営主体：特定非営利活動法人・居場所創造プロジェクト

オープン：2013年6月13日

運営時間：10時～16時（事前予約で21時まで利用可能）

食堂：11時30分～13時30分（ラストオーダー）

定休日：木曜日

住所：〒022-0001 岩手県大船渡市末崎町字平林54-1

敷地面積：966㎡

延床面積：115.15㎡

祝 辞

末崎地区公民館館長 新沼眞作

このたび、「多世代交流館居場所ハウス」が創立10周年を迎えましたことに、心からお祝い申し上げます。

さて、顧みますと、居場所ハウスはアメリカのワシントンDCで「高齢者の権利や地位の向上」を目指して活動している清田英巳様の働きかけで、アメリカのハネウエル財団から資金援助を受け、日本で唯一、この末崎の地に、平成25年6月に建設されました。

平成25年6月と言えば、あの東日本大震災から2年2ヵ月程しか経っておらず、被災された方々の多くは仮設住宅での生活を余儀なくされ、将来の夢も希望も持てずに辛い日々を送っておりました。

私たちは、これまで「居場所」と言えば、不登校の子供たちが心おきなく過ごせる場所、即ち「子供の居場所」という認識しかなかったのですが、「居場所ハウス」は高齢者に重きを置いたものだったのです。

清田様は、「高齢者が役に立たない存在とみなされ、介護を受けるだけの存在になるのではなく、何歳になっても、自分でできる役割を担いながら、地域に住み続け、世代を越えた関係を築いていくことが可能な社会の実現と、そのために『歳をとること』の概念を変えていくこと」を目的とする活動をしており、その目的を実現するため、8つの理念を掲げています。

- ①高齢者が知恵と経験を活かすこと。
- ②あくまで「ふつう」を実現すること。
- ③地域の人たちがオーナーになること。
- ④地域の文化や伝統の魅力を発見すること。
- ⑤様々な経歴・能力を持った人たちが、力を発揮できること。
- ⑥あらゆる世代がつながりながら学び合うこと。
- ⑦ずっと続いていくこと。
- ⑧完全を求めないこと。

居場所ハウスはこの理念に基づいて、運営されており、各種のイベントやワークショップを見ても、地域の多くの人々の力を借りながら、かつ、その協力者の特性を生かしながら、参加者が生き生きと元気になるよう活動しています。

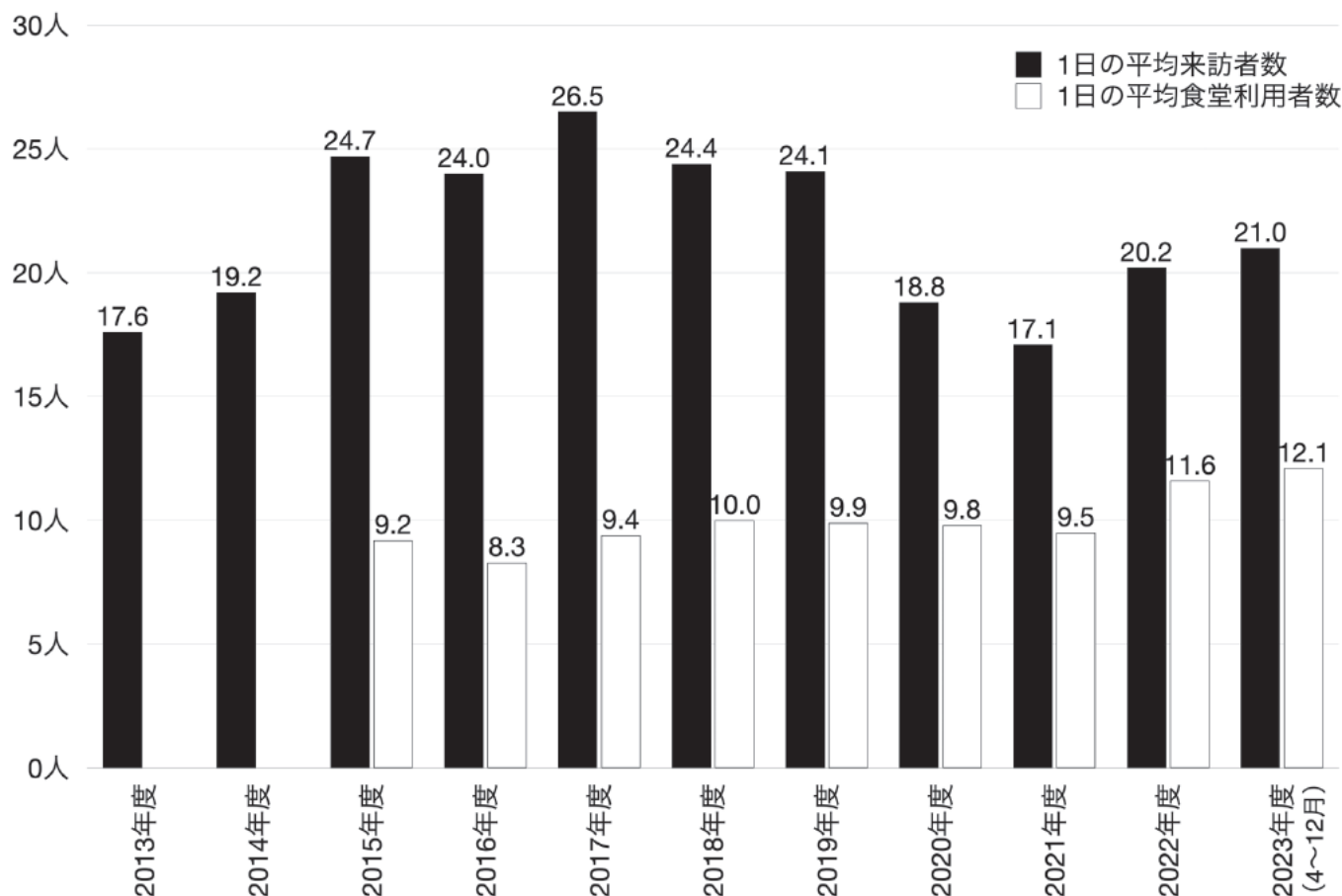
特にも素晴らしいのは、住民が、食堂が無くて困っているとなれば、すばやく食堂を作り、また、高齢者が買物に行きたくても、車がないので買物に行けないとなれば、車をチャーターして、みんなを乗せて買物に行くなど様々な住民の要望に素早く応える取り組みをしていることでもあります。即ち、地域の状況を見ながら、課題解決を図る企画をし実践していることでもあります。その地域貢献が認められ、福祉に関わる数々の賞を受賞されています。

今や、居場所ハウスは町民にとっては無くてはならない存在になっています。ここまで育てるには、理事長・館長様はじめ関係の皆様は、どれだけ苦勞されたか、計り知れないものがあります。あらためて皆様に衷心より敬意と感謝を申し上げます。

結びに、居場所ハウスの一層のご発展をご祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

来訪者

来訪者数・食堂利用者数



- ・ 2023年度は2023年12月まで集計。
- ・ 2013年6月～2023年12月の延べ来訪者数は68,629人、1日平均は約21.7人。2015年5月～2023年12月の延べ食堂利用者数は24,988人、1日平均は約9.9人。
- ・ 来訪者数にはスタッフも含まれる。
- ・ 来訪者数には、「学びの部屋」「学びの時間」のスタッフ・参加者は含まない。
- ・ 朝市、鯉のぼり祭り、周年記念感謝祭、納涼盆踊りなど大きな行事はおおよその人数で集計している。
- ・ 食堂利用者数にはスタッフ、及び、お弁当の配達、テイクアウトも含まれる。

学びの時間／学びの部屋の参加者数

- ・ 「居場所ハウス」では2017年4月から、夕方、一般社団法人「子どものエンパワメントいわて」による「学びの部屋」(2018年4月から「学びの時間(とき)」と名称変更)が始められた。「学びの部屋」は震災で学習環境を失った子どもたちが自学自習するための場所として仮設住宅で行われていた活動で、仮設住宅の閉鎖に伴って「居場所ハウス」に場所を移して継続されることになった。
- ・ 2017～2020年度まで月・火・金の週3回開催。2020年度末で一旦終了したが、2021年9月21日から火・金の週2回の開催として再開され、2022年3月まで続けられた。
- ・ 2017年4月から2021年3月までで603回開催され、延べ参加者数(スタッフを含む)は6,698人、1回平均は11.1人。

「居場所ハウス」の位置



「居場所ハウス」の敷地は、高台移転後の地域を考慮して、仮設住宅の敷地内でなく、災害公営住宅や防災集団移転の敷地の近くの土地が選ばれた。

「居場所ハウス」の建物



外観



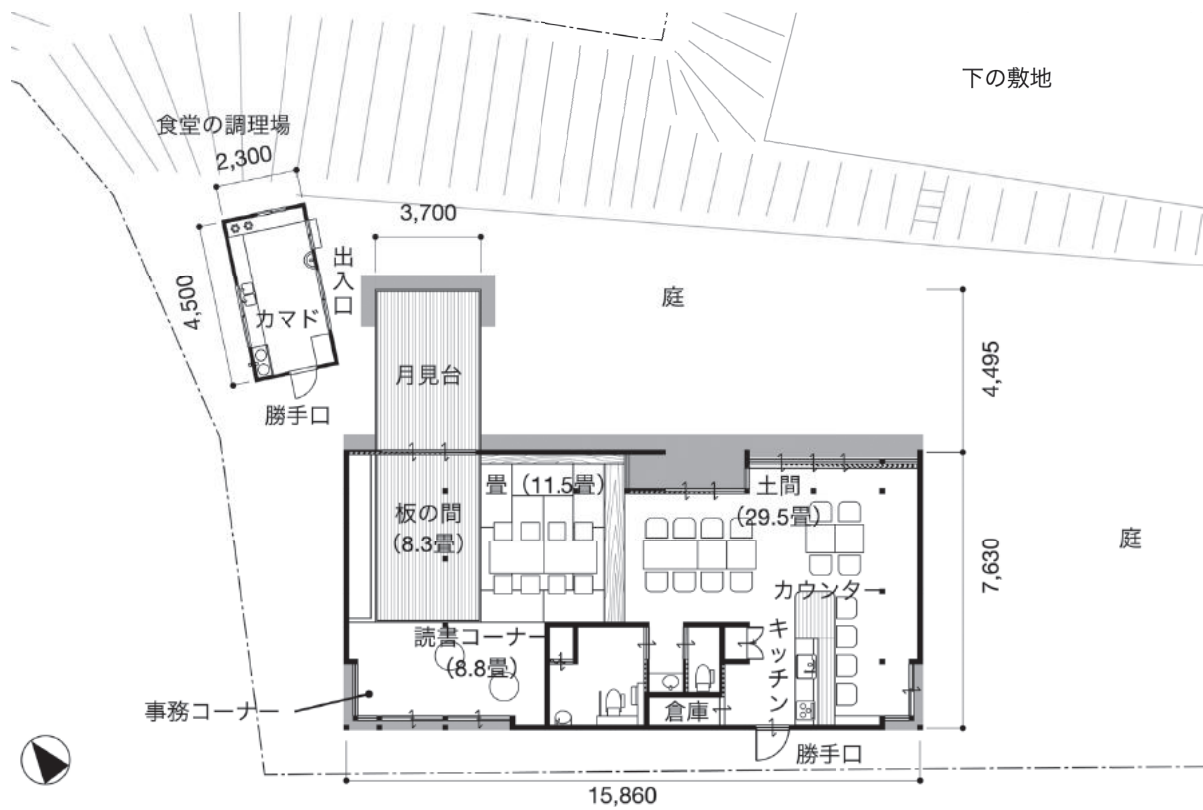
月見台



土間



和室



運営体制

NPO 法人・居場所創造プロジェクトの歴代役員

年度	2012 2013	2014 2015	2016 2017	2018	2019	2020 2021	2022 2023
理事長	近藤均	近藤均	近藤均	鈴木軍平	鈴木軍平	鈴木軍平	鈴木軍平
副理事長			鈴木軍平	武田清一郎	紀室拓雄	紀室拓雄	紀室拓雄
理事	清田英巳	清田英巳	清田英巳	清田英巳	清田英巳	清田英巳	清田英巳
理事	内出幸美	内出幸美	内出幸美	内出幸美	内出幸美	内出幸美	内出幸美
理事		鈴木軍平	紀室拓雄	近藤均	近藤均	近藤均	近藤均
理事		紀室拓雄	宮崎和貴	紀室拓雄	宮崎和貴	宮崎和貴	宮崎和貴
理事		大和田恵美子	大和田哲夫	宮崎和貴	志田仁	武田暁子	武田暁子
理事		新沼利雄	志田仁	大和田哲夫	武田暁子	武田清一郎	武田清一郎
理事		松岡孝一	武田暁子	志田仁	武田清一郎	大和田東江	大和田東江
理事		宮崎和貴	武田清一郎	武田暁子	大和田東江	佐藤興正	佐藤興正
監事	熊谷君子	熊谷君子	熊谷君子	熊谷君子	熊谷君子	熊谷君子	熊谷君子
監事			上部道義	上部道義	上部道義	上部道義	上部道義



NPO 法人総会



毎月の定例会



定例会後のコーヒーのいれ方講習会



定例会後の AED 講習会

1

写真にみる居場所ハウス

「居場所ハウス」の光景



2014年1月13日



2014年7月7日



2014年9月16日



2014年10月15日



2014年10月25日



2015年2月8日

「居場所ハウス」の光景



2015年2月10日



2015年2月11日



食堂の調理場の建設 (2015年4月11日)



居場所農園 (2015年7月10日)



クルミむき (2018年12月14日)



椿の種のからむき (2019年12月15日)

「居場所ハウス」の教室・集まり



居場所健康クラブ



生け花教室



魚のさばき方教室



歌声喫茶



布草履作り教室



そば打ち講習会

「居場所ハウス」の行事



居場所感謝祭（初めての大きな行事）



二周年記念感謝祭



朝市



朝市



子どもの日・鯉のぼり祭り



納涼盆踊り

「居場所ハウス」の四季



小正月の水木団子



ひな祭り



七夕



干し柿作り



薪割り



クリスマスイルミネーション

「居場所ハウス」の子どもたち



和室で遊ぶ子どもたち



末崎中学校ソフトテニス部の三送会



流しそうめん（居場所っこクラブ）



焼き芋（居場所っこクラブ）



子どもの日・鯉のぼり祭り



昔遊び（末崎小学校3年生の校外学習）

10年目の「居場所ハウス」



物作り教室



ひな祭りお茶会



十周年記念感謝祭



納涼盆踊り



買物送迎



健康体操

10年目の「居場所ハウス」



勉強に来た中学生



深大寺陶芸教室



居場所健康サロン



笑いヨガ（居場所健康サロン）



神坂熊野神社式年大祭に向けた御花作り



末崎小学校2年生の見学学習

2

東日本大震災後の大船渡市末崎町

大船渡市末崎町の概要

岩手県大船渡市は三陸海岸南部の代表的な都市の1つで、市の一帯は典型的なリアス式海岸となっています。末崎町は、大船渡市内に10ある町の1つ。漁業が盛んで、ワカメ養殖発祥の地でもあります（※1）。末崎町の南東部には三陸復興国立公園に指定されている碁石海岸があり、穴通磯、乱暴谷展望台、碁石海岸レストハウス、世界の椿館、大船渡市立博物館などの観光名所・施設が集まっています。

末崎町は東日本大震災による大きな被害を受けました。死者は32名、行方不明者は29名。家屋の被害は、全壊606戸、大規模半壊53戸、半壊58戸、一部損壊40戸であり、被災家屋等の合計は757戸になります（※2）。

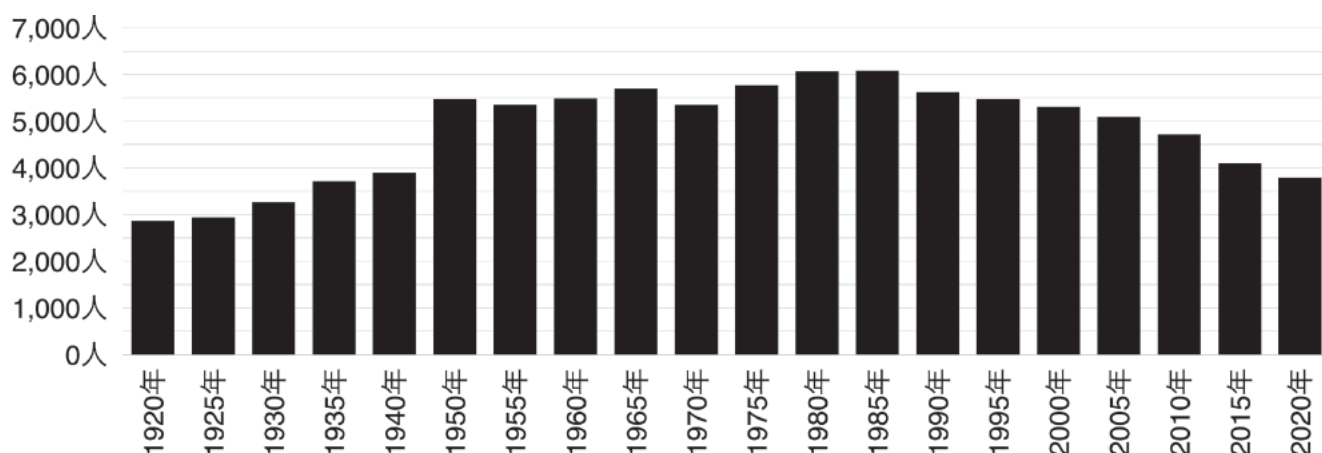
末崎町の人口は、1985（昭和60）年の6,077人をピークとして減少が続いており、2020（令和2）年の人口は3,788人とピーク時の約6割となっています（※3）。末崎町内には市立の小学校、中学校が1校ずつあります。震災前の2010（平成22）年には末崎小学校の児童数は232人、末崎中学校の生徒数は152人でした。2022（令和4）年には末崎小学校の児童数は136人、末崎中学校の生徒数は70人と、児童数は約6割、生徒数は半数以下に減少しました（※4）。2023（令和5）年8月、末崎中学校と大船渡中学校との統合が発表されました。

※1)「デジタル公民館まっさき」のウェブサイトによると、ワカメ養殖の技術が完成したのは昭和32年（1957年）である。

※2) 岩手県大船渡市「地区別の被害状況について」（2011年6月2日）より。死者・行方不明者は2011年5月27日時点、被災家屋等の合計は2011年5月24日時点の被害状況である。

※3) 国勢調査より。

※4) 『大船渡市統計書』より。児童数・生徒数は、各年5月1日現在の人数である。



末崎町の人口推移（国勢調査より）

東日本大震災から現在まで

年	月	日	出来事
2011	3	11	東日本大震災
	4	8	大田仮設（第1期118戸）の建築着工
	4	11	平林仮設（70戸）、山岸仮設（58戸）の建築着工
	5	6	小中井仮設（27戸）、大豆沢仮設（24戸）の建築着工
	5	11	大田仮設（第1期118戸）が完成
	5	11	大田仮設（第2期16戸）の建築着工
	5	11	平林仮設（70戸）、山岸仮設（58戸）が完成
	6	8	大田仮設（第2期16戸）が完成
	6	13	小中井仮設（27戸）が完成
	6	16	大豆沢仮設（24戸）が完成
	9	20	大田仮設の広報『大田仮設住宅だより』第1号、山岸仮設の広報『山岸団地だより』第1号が発行
	9	25	平林仮設の広報『8-3 談話室かべ新聞』第1号が発行
	9	28	大豆沢仮設の広報『大豆沢仮設住宅だより』第1号が発行
	9	30	小中井仮設の広報『小中井仮設住宅だより』第1号が発行
11		小中井仮設、大豆沢仮設に談話室が完成	
2012	6	20	末崎町デイサービスセンター内に末崎地区サポートセンターが開設
2013	3		泊里地域が解散
	4	2	末崎地区サポートセンターが、末崎中学校前に移転してオープン
	4		平林仮設の談話室が完成。これに伴い、今月から平林仮設の広報は『平林談話室かべ新聞』第20号として発行
	6	13	「居場所ハウス」オープン
	9	28	BRT 碁石海岸口駅が開業
2014	5		災害公営住宅（平団地5号棟）への入居開始
2015	6	25	今月から仮設住宅の広報は、末崎町内の5ヶ所の仮設住宅合同の広報『末崎地区仮設団地だより』（第46号）として発行
2016	4	25	『末崎地区仮設団地だより』第56号（最終号）が発行
	6	1	災害公営住宅（平南アパート）への入居開始
	6	25	今月から仮設住宅の広報は、大田仮設のみの広報『大田仮設団地だより』（第57号）として発行
	6	30	山岸仮設、平林仮設が閉鎖
	8	25	『大田仮設団地だより』第60号（最終号）が発行
	12	6	末崎小学校校庭にて「おかえりなさい校庭の会」開催
	12	15	末崎中学校校庭にて「校庭利用再開式」開催
	12	31	小中井仮設が閉鎖
2017	3	31	大田仮設が閉鎖
	3	31	末崎地区サポートセンターが閉鎖
	3		災害公営住宅（平南アパート）が新たな行政区として「平南団地」を結成
	4	1	細浦地域と内田地域が、細浦地域として合併
	5	5	防災集団移転促進事業の17戸、一戸建て災害公営住宅6戸が整備された「リアスの丘」で街びらきが行われる
	5	17	東日本大震災後、末崎中学校校庭での初めての運動会が開催
	5	20	東日本大震災後、末崎小学校校庭での初めての「こいのぼり大運動会」開催
2018	3	31	大豆沢仮設が閉鎖
2019	10	11	店舗統廃合により、JA おおふなと末崎支店が廃止
2020	3	26	末崎小学校・保育園前に、岩手県内で2ヵ所目のラウンドアバウト交差点が整備
2021	11	18	末崎小学校・末崎保育園前のラウンドアバウトと碁石海岸大駐車場付近を結ぶ県道碁石海岸線が開通
	12	22	末崎町の石浜から平林を結ぶ県道大船渡広田陸前高田線が開通

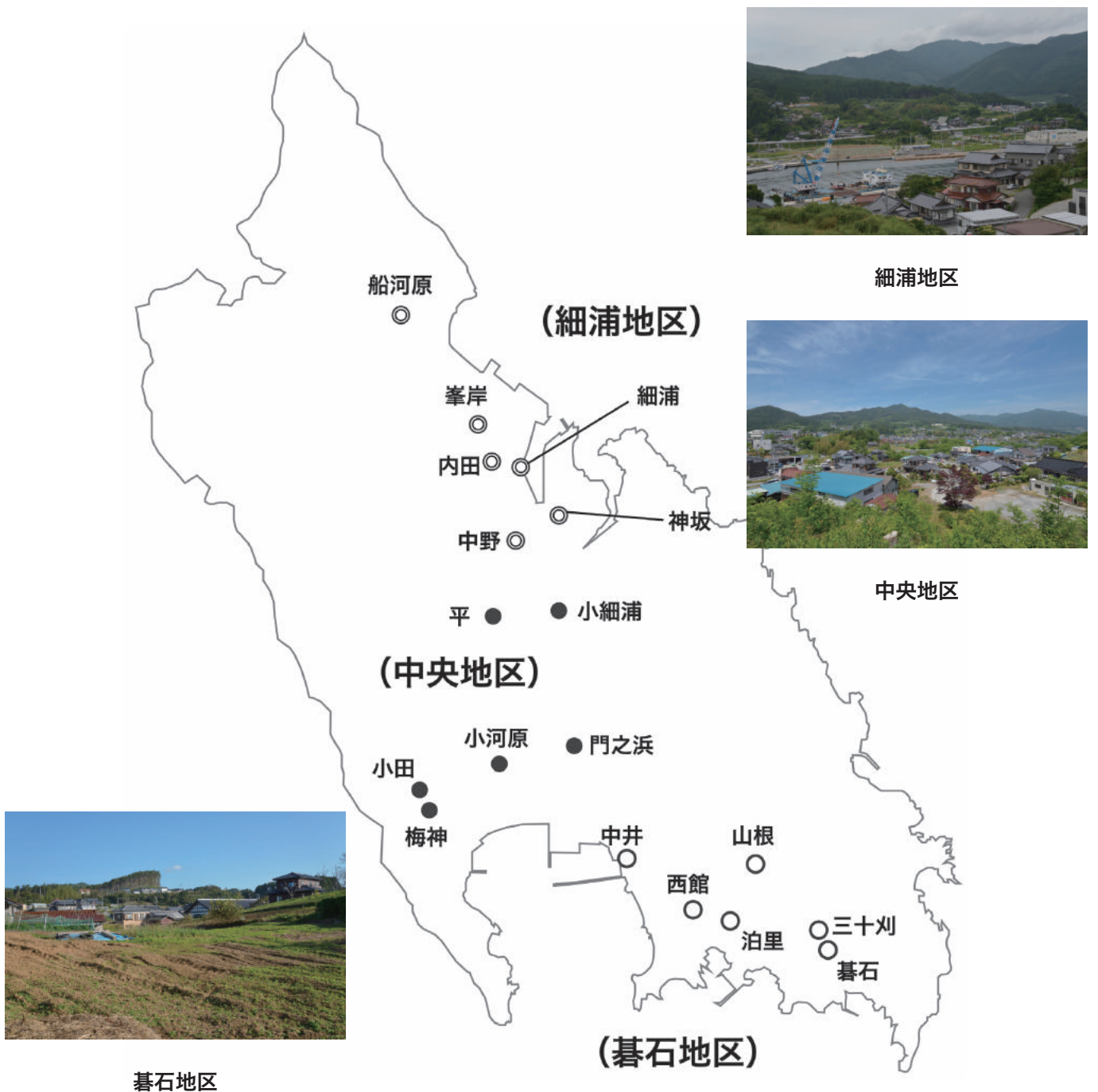
□参考資料

- ・「末崎町東日本大震災記録誌」編集委員会編『末崎町東日本大震災記録誌』末崎町公益会 2022年
- ・「デジタル公民館まっさき」(<http://www.massaki.jp>)
- ・「大船渡仮設住宅団地 Official Site」(<http://ofunatocity.jp>)

地域公民館の変遷

末崎町は北から大きく細浦、中央、碁石の3つに分けられており、東日本大震災前には18の地域公民館がありました。末崎町の地域公民館は、社会教育施設としての公民館でない自治公民館で、その建物は行政区の住民の共有財産です。

東日本大震災の影響により、2013年3月には泊里地域が解散、2017年4月には細浦地域と内田地域が合併しました。地域公民館の数が減る一方、55戸の災害公営住宅「平南アパート」は既存の地域公民館に加わず、災害公営住宅単独で新たな自治会「平南団地」を立ちあげました。「平南団地」が設立されたことで、現在、末崎町の行政区は17（地域公民館16・自治会1）となっています。



東日本大震災前の末崎町の地域公民館

東日本大震災後の末崎町



末崎地区サポートセンター (2017年3月閉鎖)



BRT 碁石海岸口駅



おかえりなさい校庭の会 (末崎小学校)



震災後初めての運動会 (末崎中学校)



門之浜湾の防潮堤



小学校・保育園前のラウンドアバウト交差点

仮設住宅・高台移転

■ 仮設住宅

東日本大震災後、末崎町には5ヶ所に計313戸の仮設住宅が建設されました。市営球場の大田仮設（134戸）、末崎中学校校庭の平林仮設（70戸）、末崎小学校校庭の山岸仮設（58戸）、民有地の小中井仮設（27戸）と大豆沢仮設（24戸）の5ヶ所で、震災から2～3ヶ月が経過した2011年5～6月にかけて入居が始まりました。それぞれの仮設住宅ごとに自治会が結成され、自治会の活動のサポートをするために、仮設住宅には2～3名ずつの支援員が常駐、ないし、巡回していました（※）。住民らが集まる場所として山岸仮設には集会所、その他の4ヶ所の仮設住宅には談話室がもうけられました。

小・中学校の校庭としての利用を再開するため、校庭の仮設住宅から先に閉鎖されることとなり、山岸仮設、平林仮設は2016年6月末に閉鎖。この時点で、山岸仮設、平林仮設でのほとんどの入居者が高台移転を終えていましたが、他の仮設住宅に移転した入居者もいました。

仮設住宅の閉鎖後、校庭の復旧工事が進められ末崎小学校では2016年12月6日に「おかえりなさい校庭の会」が、末崎中学校では2016年12月15日に「校庭利用再開式」が行われました。2017年5月20日には末崎小学校で「こいのぼり大運動会」が、2017年5月17日には末崎中学校で運動会が開催。これが震災後初めて、校庭で開かれた運動会となります。震災のあった2011年に小学校1年生だった子どもたちは、校庭での運動会を経験しないまま卒業したことに配慮し、2017年5月20日の「こいのぼり大運動会」には小学校を卒業したばかりの中学1年生を招待したプログラムも行われました。

小中井仮設は2016年12月末で、大田仮設は2017年3月末で閉鎖され、既に市営球場の復旧工事も完了。2018年3月31日、最後の大豆沢仮設が閉鎖されました。

■ 高台移転

仮設住宅からの主な移転先には災害公営住宅、防災集団移転、自力再建があります。災害公営住宅は、末崎町内の3ヶ所に建設されました。集合住宅形式の平団地（11戸）、平南アパート（55戸）と、戸建て住宅形式の泊里団地（6戸）です。

平団地は2014年5月に、平南アパートは2016年6月に入居が行われました。泊里団地の6戸は、防災集団移転促進事業の17戸とともに「リアスの丘」として整備され、2017年6月5日に街びらきが開かれました。

（※）「大船渡仮設住宅団地 Official Site」には、「支援員は仮設団地のリーダーではありません。それぞれの自治会や住民の皆さんの活動のお手伝いをするのが役割です」と書かれた上で、支援員の仕事として「①談話室・集会所の管理」、「②仮設住宅団地の見回り」、「③住民の皆様からの困りごと相談受付」、「④物資、大船渡市広報、イベント告知資料等の配布」、「⑤仮設住宅団地への訪問受付」、「⑥集会所利用予約（イベントなど）の受付」、「⑦団地コミュニティ醸成のお手伝い」、「⑧皆さんが安心して暮らしていけるように大船渡市や社会福祉協議会さん等の活動をお手伝いします」、「⑨広報の作成」、「⑩各種帳簿への記録と管理」があげられている。

仮設住宅

名称	住所	建設戸数	住戸タイプ			着工	完成	閉鎖
			1DK	2DK	3K			
大田仮設	末崎町字大田 142-10 (市営球場)	134 第1期 118 第2期：16	35	64	35	2011年 4月8日 (第1期) 2011年 5月11日 (第2期)	2011年 5月11日 (第1期) 2011年6 月8日 (第2期)	2017年 3月31日
平林仮設	末崎町字大田 142-10 (末崎中学校)	70	16	38	16	2011年 4月11日	2011年 5月11日	2016年 6月30日
山岸仮設	末崎町字山岸 122 (末崎小学校)	58	16	26	16	2011年 4月11日	2011年 5月11日	2016年 6月30日
小中井仮設	末崎町字小中井 108-2	27	0	27	0	2011年 5月6日	2011年 6月13日	2016年 12月31日
大豆沢仮設	末崎町字大豆沢 24-1	24	0	24	0	2011年 5月6日	2011年 6月16日	2018年 3月31日

□参考資料

- ・「末崎町東日本大震災記録誌」編集委員会編『末崎町東日本大震災記録誌』末崎町公益会 2022年
- ・岩手県ウェブサイト「応急仮設住宅の建設に係る進捗状況について」のページ (<http://www.pref.iwate.jp/kenchiku/saigai/kasetsu/009714.html>)



山岸仮設（末崎小学校校庭）



平林仮設（末崎中学校校庭）



大田仮設（市営球場）



仮設住宅合同の夏祭り交流会

高台移転

末崎町の災害公営住宅

名称	住所	建設戸数	完成	入居	備考
平団地 5 号棟	末崎町字平林 104-1	11	2014 年 4 月 30 日	2014 年 5 月 26 日	RC 構造 3 階建て
平南アパート	末崎町字平林 87-1	55	2016 年 3 月 15 日	2016 年 5 月 23 日	RC 構造 4 階建て
泊里団地	末崎町字山根 105-7 (リアスの丘内)	6	2016 年 3 月 31 日	2016 年 4 月 27 日	木造平屋 戸建て

※平南アパートは岩手県が建設し、大船渡市に管理が移管された。

□参考資料

・「末崎町東日本大震災記録誌」編集委員会編『末崎町東日本大震災記録誌』末崎町公益会 2022 年



災害公営住宅（平南アパート）



災害公営住宅（平団地 5 号棟）

末崎町の防災集団移転促進事業

地域名	戸数	工期	引き渡し開始	備考
峯岸	21	2014 年 3 月 ~ 2015 年 6 月	2015 年 9 月	峯岸団地に移転
細浦	13	2013 年 12 月 ~ 2015 年 1 月	2015 年 2 月	同地域内の 2 ヲ所に移転
神坂	9	2014 年 5 月 ~ 2015 年 3 月	2015 年 5 月	
小細浦	8	2013 年 3 月 ~ 2013 年 12 月	2014 年 3 月	同地域内の山岸に移転
小河原①	35	2014 年 5 月 ~ 2015 年 6 月	2015 年 8 月	平林、上山への移転
小河原②	6	2014 年 3 月 ~ 2014 年 10 月	2014 年 12 月	鶴巻への移転
梅神①	10	2014 年 5 月 ~ 2015 年 4 月	2015 年 5 月	同地域内の 2 ヲ所に移転
梅神②	3	2014 年 3 月 ~ 2014 年 11 月	2015 年 2 月	同地域内の 2 ヲ所に移転
門之浜	13	2013 年 6 月 ~ 2014 年 3 月	2014 年 5 月	
泊里	17	2014 年 6 月 ~ 2015 年 7 月	2015 年 9 月	山根地域の高台（リアスの丘）に移転
合計	135			

□参考資料

・「末崎町東日本大震災記録誌」編集委員会編『末崎町東日本大震災記録誌』末崎町公益会 2022 年

3

居場所ハウスオープンの経緯

「Ibashi」が目指すこと

Ibashi 代表 清田英巳

■ Ibashi の立ち上げ

2011年にアメリカのワシントンDCでIbashiという団体を立ち上げました。アメリカでIbashiという名前を使ったのは、高齢者の権利や地位を向上しようという活動をする時、高齢者という名前が入るとネガティブなイメージになる恐れがあるからで、高齢者や老人ホームを連想させない言葉、アメリカ人が誰も思いつかない言葉ということでIbashiという名前にしました。

最初、Ibashiは開発途上国で活動することを考えていましたが、東日本大震災が起きました。震災から1週間後、ワシントンDCのレクチャーで被災地の高齢者の支援をしたいという話をしたことがきっかけで、ハネウェル社から連絡がありました。これが「居場所ハウス」の始まりです。

■ ブータンで出会った言葉

ブータンで、退職した僧侶の住む場所をデザインする活動に参加したことがあります。ブータンでは僧侶が国家公務員で、55歳になると退職しますが、退職したら住む場所がないということでした。ブータンを訪れた時、次のような言葉が小学校の壁に書かれているのを見かけました。ブータンは幸せ(Happiness)の国で知られていますが、この言葉はIbashiの活動をよく表現していると思いました。

「The time to be happy is now. The place to be happy is here. The way to be happy is to make other people happy.」

(今が幸せになるための時、ここが幸せになるための場所、他の人を幸せにすることが幸せになるための方法。)

今まで訪れた高齢者施設に住む方々の顔を思い返した時に、この言葉に書かれている何歳になっても他の人を幸せにできるという視点が足りないのではないかと考えました。

■ Ibashiが目指すこと

高齢社会に関する問題は複雑で、小さな団体にできることは少ないですが、Ibashiでは2つのチャレンジをしています。少子高齢化が進み介護者が減っていく状況をどうするか？ 自然災害の規模が大きくなりつつあり、高齢者が大きな被害を受けている状況をどうするか？ の2つです。東日本大震災でも亡くなった方の56%が65歳以上だったと言われています。

高齢者の人数は、これから途上国で増えていき、2050年までには世界の5人に1人が60歳以上になります。貧困の問題とも深いつながりがあります。現在、80%以上の高齢者は途上国に住んでいますが、日本の人口より多くの高齢者が貧困レベルの生活をしています。

たくさん増えてくる高齢者が問題だと言われることがありますが、Ibashiは、高齢者に対する見方を変えましょうというシンプルな主張をしています。65歳になっても急に能力がなくなるわけではありません。東日本大震災の被災地で、高齢者は「こっちに逃げろ、

あっちに逃げろ」ということを感覚でわかっていて、水の流れが速いからアスファルトの上は逃げるなどか、食べられるキノコの見分け方とか、電気や火がない時の調理法などを教えてくれたと聞いたことがあります。高齢者の知恵や経験がコミュニティのレジリエンス（回復力）を高めることがある。Ibashi は、この部分に注目したいと考えています。

Ibashi は地域の高齢者の隣に座って、高齢者が「地域のためになれる場所」を、高齢者と一緒に考え、作っていきたい。けれども、最終的には高齢者自らが変わらないと、高齢化の問題は変わらない。65歳の人「75歳の人…」って言う。75歳の人「85歳の人…」って言う。自分は高齢者ではないから一緒に参加したくないし、その姿を今は見たくないと言う。そこが変わっていく必要がある。そのためには、小さなプロジェクトでも実際に経験するしかありません。

■ Ibashi の地域への関わり

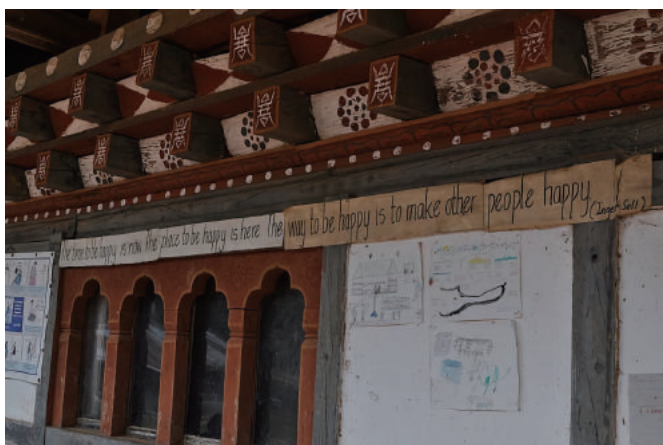
大船渡でも、フィリピン（※）でも、「災害の後、研究者が何回も来て調査をしたけど、あれはどうなったのかしら?」、「もう調査には答えたくない」という話を聞きました。

2015年に仙台で国連防災世界会議があった時、「居場所ハウス」とIbashi フィリピンの活動を紹介する映像を作りましたが、映像にすると地域の人も見ることができる。Ibashi も調査を行うことができますが、地域に何を還元できるかをいつも考えてきました。

専門家は、やってあげるのではなくて、地域の人と一緒に作る事が重要です。しかし、専門家だからこそ持っている根拠（エビデンス）に基づいた知識があるので、それを地域にいかすことも大事です。アメリカの大学院時代の指導教員がいつも言っていたのは「建物は手袋、組織（Organization）は手」だということ。先に手袋を作ってしまうと、手が動きづらい。まず組織がどういう動き方をするかを考えてから建物を作る必要があるんだと。専門家だけで建物を作るのに比べると時間がかかるかもしれませんが、その時間は無駄でないと考えています。

高齢者とは誰なのか？ 国連では65歳以上を高齢者と定義されています。65歳以上の人々を守る対象とするのか、あるいは高齢者に対する見方を変えていくのか。そもそも誰が高齢者なのか？ 「居場所ハウス」はこの大きな問いを解くためのヒントを与えています。

(※)Ibashi は、2013年11月の台風ヨランダ(台風30号)の大きな被害を受けたフィリピン・セブ島のオルモック市でもプロジェクトを行っている。



ブータンの小学校の壁の言葉



1回目のワークショップ

Ibashi の 8 理念

①高齢者が知恵と経験を活かすこと (Elder Wisdom)

今の社会では、高齢者は周りに迷惑をかける人、面倒をみてもらう人だと思われがち。けれども、豊かな知恵や経験をもつ高齢者は、地域にとってかけがえのない財産。高齢者が頼りにされ、自信を持てるようにしましょう。

②あくまでも「ふつう」を実現すること (Normalcy)

誰かが管理し過ぎたり、がんじがらめの規則があったり、時間ごとにスケジュールが決められていたりする施設ばかりじゃ、暮らしは窮屈になる。誰にも強制されず、いつでも気軽に立ち寄れて、何となく好きなことができる、そんな「ふつう」の場所にしよう。

③地域の人たちがオーナーになること (Community Ownership)

誰かがやってくれると受身になるのでなく、地域の人たちが良いことも、悪いことも引き受ける「当事者」になって場所を作っていきたい。みなで知恵や力を出し合い、助け合って、地域の自慢の場所にしよう。

④地域の文化や伝統の魅力を発見すること (Culturally Appropriate)

地域には独自の文化や伝統がある。日々の生活ではあまり意識しなくても、じっくり見つめればたくさんの魅力に気づくはず。他を真似せずに、地域ならではの魅力を発見していこう。

⑤様々な経歴・能力をもつ人たちが力を発揮できること (De-marginalization)

若い人、高齢の人、障がいのある人・ない人、子育て・介護中の人、社会に馴染めないと悩む人など、地域には様々な人が暮らしている。「できないこと」ばかりの弱者と思い込んで孤立しなくていいように、それぞれが「できること」を持ち寄って、互いに支え合おう。

⑥あらゆる世代がつながりながら学び合うこと (Multi-generational)

同じ世代の人と付き合うのは話も合うし、居心地がいいけれど、同じ世代で固まってるだけじゃもったいない。子どもや若者は人生の先輩である高齢者から、高齢者は新しいことに敏感ですぐ吸収していく子どもや若者からというように、世代を越えて学び合える場所にしよう。

⑦ずっと続いていくこと (Resilience)

場所を続けていくには「環境」「経済」「人」の3つのつながりを考えよう。それは、暮らしに恵みを与えてくれる自然環境を破壊しないこと、必要なお金を自分たちでまかなうこと、人と人との関係を大切にする。3つのつながりを大切にしながら、ずっと場所を続けていくこと。そこから、ささやかでもいい、地域や国境を越えたつながりを築いていこう。

⑧完全を求めないこと (Embracing Imperfection)

初めから完全であることを求めずに、その時々状況に対応しながら、じっくりと、ゆっくりとやっていけばいい。その道のりは地域によって違うはず。だから、今は不完全であることに焦らず、変われるという可能性を信じたい。時間とともに、人とともに、柔らかに歩んでいこう。



※ Ibashi の 8 理念は、2012 年 4 月、Ibashi 代表の清田英日さんと、認知症に対する介護と概念の変革を提唱する医師の AllenPower さんがロックフェラー財団から補助を受けて作成したものである。

居場所ハウス

陸前高田市気仙町／古民家提供 小澤惣一

「ハネウエル居場所ハウス」の10周年にあたり、心からお祝い申し上げます。

振り返ってみますと、震災後2年目頃に、「居場所」の建物をどうするかという話が居場所創造プロジェクトの会議であったと、妻の睦子から聞いたと記憶しています。当時、私の家も津波で流されていて、私たち家族は、叔父が20年前まで住んで空き家になっていた築60年くらいの古い別家を、自分たちで修理して住んでいましたが、家を新築するか別家をリフォームするかを家族で相談をしていた時期でもありました。子どもたちは新築をしてほしいという意見で、「居場所」の話し合いでも日本の古民家を移築して使いたいとの意見が出て、奇跡的に、ほぼ同時期に需要と供給がマッチして、うちの別家を「居場所」に寄贈するということになりました。

もともと、「居場所」の会議には、清田さんがこのプロジェクトをハネウエル様からの震災支援と共に、典人会の内出さんに申し出てくれた当初から妻も参加していたので、話し合いの推移は聞いていて、「居場所」の理念も理解していたこともありました。

もちろん、この「居場所ハウス」が陸前高田にできてほしいという思いは心のどこかにありましたが、2013年6月13日の「ハネウエル居場所ハウス」開所日に招かれて出席した時、やはり末崎という地域であって良かったと思えました。末崎の人々の熱意や協力体制が素晴らしかったからです。

開所以来この10年間、運営委員会の皆様が真に守って来て下さったことに、心から感謝を申し上げますと共に、これからも地域の皆様の居場所であり続け、20周年、30周年を迎えられますように心から祈念して、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。



移築前の古民家



オープンまでの打合せ

居場所ハウス創設 10 周年を祝して：オープンまでの物語

社会福祉法人典人会理事長 内出幸美

鈴木軍平理事長をはじめ、居場所の皆さん、末崎町の皆さん、「居場所ハウス」10周年、本当におめでとうございませう。私からは「居場所ハウス」が2013年6月3日にオープンするまでどのような人たちが、どう関わってきたのか、その経緯（物語）を記したいと思ひます。

「居場所ハウス」創設の立役者である清田英巳さんと私が初めて出会ったのは、2009年7月にロンドンで開催されたIAHSA（International Association of Homes and Services for the Ageing）という高齢者施設の事業者が集まる国際会議でした。既に英巳さんは米国で非営利団体Ibasho設立し、その考え方を広める活動をしていました。それから2年後の2011年3月11日、東日本大震災が起きました。私が所属する典人会のいくつかの事業所では、大切なモノは失ってしまったけれど、子どもからお年寄りまで一つ屋根の下で助け合って生き延びた体験をし、正に「無一物中無尽蔵」を目の当たりにしました。

そんな中、その年の12月、英巳さんから「被災地支援をしている米国のOperation USAからの資金援助が受けられそうなので、大船渡や陸前高田で何か役立てる方法はないか？」との連絡がありました。英巳さんと話し合う中で、家や大切なものを失った被災地だからこそ、それぞれが自分らしくいられる「居場所」づくりが必要。そのためには中核となる「居場所カフェ」を創り、人間同士の絆を深めていこうということになりました。それからオープンまで、怒涛のような1年半となりました。

1カ月後の2012年1月12日、「居場所」の提案が、Operation USAの被災地支援プロジェクトとして認可され、正式に米国ハネウェル社から3,000万円の資金提供を受けることとなりました。早速、2月13日から英巳さんとOperation USA担当者のスーザンさんが大船渡と陸前高田を訪れ、「居場所」創造プロジェクトが始動することとなりました。

まず、土地探しに取り掛かりました。数多くの土地を見てまわりましたが、2月14日に近藤均末崎公民館長とお会いし、末崎の住民の方々の熱意もあり、この地の選定となりました。また、建物はこのプロジェクトの通訳を務めていただいた陸前高田市気仙町の小澤睦子さんご夫妻から「自分たちの住んでいた古民家を寄附したい」との申し出があり、実際に見に行くと、古い農具、古民家ならではの大きな黒い柱、再生の価値観などがコンセプトにぴったりだったこともあり、ありがたく末崎に移築することになりました。そして、ほぼ構想が固まった5月10日、ハネウェルのCEO、英巳さん、スーザンさん、典人会の私と熊谷が大船渡市役所を訪れ、戸田市長に「居場所」の必要性を訴えました。

「居場所カフェ」をつくる時に大切なのは、地域の方々が自分たちのプロジェクトだと認識することであるという理念のもと、“どういう方針でいくのか”、“デイサービスと居場所はどこが違うのか”、“メニューはどうするのか”、“建物のデザインはどうしたら良いか”等について、末崎の住民の方々や関心のある人たちが集まり、丁寧に7回のワークショップや18回にも及ぶ現地ミーティング、そして米国とのスカイプ会議も9回行いました。

特に印象的だったのは、2012年10月25日にふるさとセンターでおこなった「私にもできるワークショップ」です。これは、「居場所カフェ」で具体的に自分たちはどのように貢献できるかを60名の参加者全員に発表してもらいました。「竈の火おこしを教えられる」「スペイン語だったら教えられる」「コーヒーを美味しくいれられる」「子供たちと遊べる」「茶碗洗いはできる」など、自分たちにできることを発表し合いました。これらが現在の「居場所ハウス」の基礎となっていることは言うまでもありません。

その他、建物ワークショップでは末崎の方々の意見だけではなく、英巳さんの知人である北海道大学の森教授も参加し、月見台を設けるなど昔を懐かしみながらも未来を見据えるモダンさを兼ね備えた建物となっていきました。移築は伊東組さんが担ってくれました。

また、オープンまでの諸経費を賄うために「SEEDx 地域未来塾」という内閣府の被災地で起業するための資金150万円の助成金を活用させていただきました。運営には法人格取得が重要だという考え方からNPO申請し、その事務手続きは現在も軍平理事長の片腕である松澤さんに手伝ってもらいました。また、2013年2月20日には、「まちの居場所国際シンポジウム」が京都で開かれた時、英巳さんと私が一緒に参加し、「居場所ハウス」を支え続けることとなる田中康裕さんと引き合わせていただきました。

ここまで記してきたとおり、総合コーディネーターとして清田英巳さん、経済支援担当としてスーザンさん、建築デザインは森教授、古民家提供と通訳は小澤さん、現地担当として典人会、地元支援者として近藤さん、軍平さん、その他大勢の方々の知恵と努力と情熱を持ち続けたからこそ、2013年6月13日に「居場所ハウス」としてオープンすることができたのです。私が知っているのは、オープンまでの以上のような物語です。オープン後は、誰しもが知るところとなった「居場所ハウス」ですが、この10年の間、軍平理事長をはじめ、運営しているコアメンバーの方々のご努力に改めて敬意を表したいと思います。



「居場所ハウス」 オープンまで

年	月	日	出来事
2011	3	11	東日本大震災
	3	17	lbasho 代表の清田英巳さんがワシントン DC で行ったレクチャーで被災地支援に言及
	3	22	レクチャーの参加者を通して、世界各国の被災地支援を行う国際 NGO オペレーション USA (Operation USA) が lbasho にコンタクトをとる。オペレーション USA は東日本大震災の被災地でのプロジェクトを計画していた
	3	24	米国ハネウェル社が lbasho にコンタクトをとる。高齢者支援の場所作りを提案したハネウェル社に対して、lbasho は高齢者のための支援ではなく「高齢者が役割をもてる機会を作る」というコンセプトでプロジェクトを行うことを提案
	11		清田英巳さんが、以前からの知人であった社会福祉法人・典人会の内出幸美さんに大船渡市・陸前高田市でのプロジェクト実施の可能性を打診
	12		大船渡市・陸前高田市で、lbasho のコンセプトに基づくプロジェクトを行うことを確認
2012	1	12	9ヶ月の協議を経て、lbasho の提案がオペレーション USA のプロジェクトとして正式に認可
	2	13	清田英巳さん、オペレーション USA の Susan Fassig さんらがプロジェクトの候補地として大船渡市・陸前高田市の 5 地域を訪問。大船渡市末崎町では（当時の）末崎地区公民館長を訪問。大船渡市長を訪問し、市の理解・協力を依頼。訪問をふまえて、大船渡市末崎町でプロジェクトを行うこととなる（～2月18日）
	2		清田英巳さんが、スリランカのプロジェクトと一緒にいったこともある北海道大学大学院の森傑教授に基本設計を依頼
	5	8	清田英巳さん、オペレーション USA の Susan Fassig さん、ハネウェル社の担当者らが大船渡市長の訪問、プロジェクト候補地の視察を行う（～5月18日）
	5	14	最初のワークショップ（居場所カフェの理念・イメージを共有する）
	5	16	ワークショップ（メニューを考える）
	7	11	ワークショップ（運営・建物を考える）
	9	15	NPO 法人・居場所創造プロジェクトの設立総会。運営する場所の名称が「居場所ハウス」に決定
	10	16	地域説明会
	10	24	地鎮祭
	10	25	ワークショップ（運営・建物を考える／自分にできることを見つける）
	12	7	ワークショップ（自分にできることを見つける）
2013	3	8	「居場所ハウス」の運営団体、NPO 法人・居場所創造プロジェクト設立。設立時の理事は近藤均さん、清田英巳さん、内出幸美さんの 3 人
	5	8	ワークショップ（自分にできることを見つける）
	5	15	鍵引き渡し
	6	13	「居場所ハウス」オープニングセレモニー

※特定非営利活動法人・居場所創造プロジェクト平成 24 年度事業報告書、北海道大学大学院の修了生の蒔苗沢子氏の記録等をもとに作成。



鍵引き渡し



オープニングセレモニー

4

居場所ハウス 10年の歩み

2013（平成25）年の出来事

月	日	出来事
6	13	「居場所ハウス」オープニングセレモニー
6	29	最初の定例会
7	1	パート1人を雇用。この日より、木曜を定休日とし、週5日の運営をパートが、日曜の運営をボランティアが担当
7	16	末崎地区サポートセンター主催の「地域復興交流会～泊里地域編～」開催
8	5	道路沿いに看板を設置
9	4	末崎地区サポートセンター主催の「居場所健康クラブ」が始まる
9	29	大船渡市立根町のジャズ喫茶「h. イマジン」からグランドピアノが寄贈
10	1	パートの辞職に伴い、この日よりボランティアのみで運営
11	17	おはなしころりんによる移動子ども図書館の巡回が始まる。以降、毎月巡回
11	24	最初の大きなイベント「居場所感謝祭」
12	21	寄贈された薪ストーブを使い始める



オープン当初の様子



オープン当初の様子



地域復興交流会～泊里地域編～



居場所健康クラブ

2014（平成26）年の出来事

月	日	出来事
1	13	パート3人を雇用。この日より、週3日（月・火・金曜）の運営をパートが担当、週3日（水・土・日曜）の運営をボランティアが担当
1	20	Facebookにキッチンカーの記事を投稿したところ、大船渡町にキッチンカーがあるという情報が寄せられる
2	12	末崎中学校前に掲示板を設置
2	17	土間と和室の間にあった柱を撤去
2	26	キッチンの奥に勝手口を設置する工事を始める
3	1	ひな祭り
3	28	KUMON主催の「東北トリップ」
5	3	子どもの日・鯉のぼり祭り
5	23	NPO法人・居場所創造プロジェクトの平成26年度総会開催。食事の提供や地場産品の販売など運営の核になる活動を行うことを確認。鈴木軍平さん、紀室拓雄さんら末崎町の6人が新たに理事に就任
6	3	「草月流生け花教室」が始まる
6	6	敷地内の北側斜面で畑作りを始める
6	7	大船渡町の飲食店よりキッチンカーを借りる
7	13	一周年記念感謝祭。キッチンカーを利用して軽食を販売
8	15	納涼盆踊り
8	24	末崎町平地域の休耕地を活用した農園での作業を始める
8	26	この日の定例会で、10月から朝市を開催すること、朝市でキッチンカーを利用して軽食を販売することが議題となる
9	22	末崎町門之浜の菊池さんから寄贈されたカマドを移設
10	4	「北上ボランティアサークル・つばさ」との交流会にあわせて、朝市プレオープン。農園から収穫した野菜を販売。移設したカマドで初めてご飯を炊く
10	5	健康講演会に合わせて、朝市プレオープン。農園から収穫した野菜を販売
10	18	デジタル公民館まっさき主催の「ふれあいキッズデー」開催
10	25	朝市を始める。以降、2014年12月までは毎月第1・3土曜日に、2015年1月から毎月第3土曜日に開催
11	10	保健所から、キッチンカーで食事を販売するための「飲食店営業（軽飲食）」の営業許可が下りる
11	15	デジタル公民館まっさき主催の「ふれあいキッズデー」開催
12	3	クリスマス・イルミネーションの点灯を始める
12	21	デジタル公民館まっさき、ふらいパンダ、三陸みらいシネマとの共催で「居場所ハウスクリスマスキッズデー」開催
12	23	この日から「草月流生け花教室」は参加者有志の活動として継続される

■多世代の人々にとっての居場所ハウス

写真はある日の「居場所ハウス」の様子。この日は、5歳の子どもから90代の方までと幅広い年代の方にお越しいただきました。手前のコタツでは若者2人がコーヒーを飲みながら話。本棚の前で遊んでいる子どもと、付き添いでやってきたお祖母さん。奥の土間では運営の打合せをされている方。薪ストーブの周りでは、90代と80代の方が座っています。この日の朝は、小学生がやって来て、カラオケをしたり絵を描いたりして遊んでいました。

この様子を見ながら、「今日はいい感じだね」、「これが本来の「居場所」、多世代交流っていう感じだなあ。四世代だよ」という会話。こうした光景をともに目にすることで、「居場所ハウス」という場所の意味が少しずつ共有されていけばいいと思います。

この日は、地元の方が「かぼちゃけ」という郷土料理を作ってくださいました。かぼちゃと小豆ともち米でできた、かぼちゃのお粥です。

できあがった「かぼちゃけ」は、居合わせた人にも振る舞ってくださいました。「かぼちゃけ」を食べながら、「子どもの頃、食べたけど。50年は食べてない」と80代の方。「おら、初めて食べた。子どもの頃、出されたけど、ドロドロして見かけが悪かったから嫌だと言って」と90代の女性。高齢の方にとっても、今となっては珍しい料理のようです。50代のある方は、「かぼちゃけ、すごい楽しみ。作ったことも、食べたこともない」と言いながら、後ろから料理をされているところを覗きこんでおられました。

この日の「かぼちゃけ」作りは、会話の中から自然に生まれたもの。「〇〇教室」と銘打って行われたイベントではないため、ご存知なかった方も多いと思います。ただ、「何が行われているかは来た時のおたのしみ」（だから、何が行われているかと頻りに顔を出していただく）というかたちで、自然に生まれたことを大切にするのが、「居場所ハウス」らしいかなと思います。

田中康裕（2014年1月24日のFacebookの投稿より）



■高田人形の思い出

2014年3月1日（土）、「居場所ハウス」でひな祭りを行いました。貴重な高田人形を多くの方に見ていただくため、3月5日（水）の午前中までひな人形の展示を行いました。展示期間中は、日頃「居場所ハウス」には顔を出さない方々にもお越しいただくことができました。

高田人形を貸してくださったHさん。会議のためやって来た高校生と一緒に人形の前に行って、「昭和16年、私が小学校3年生の時に買ってもらった。新しい〔段飾りの〕人形買ってからは飾ってなくて。忘れてたけど、何十年かぶりに出した。今年は、みんなに見てもらって幸せだねえ」と話されていました。

今回、3人の方から高田人形をお借りし、それぞれの思い出を添えて展示させていただきました。高田人形にまつわる貴重な思い出ですので、改めて3人の方の思い出をご紹介します。

□Oさん：赤い大きな人形は約70年前の高田人形。残りの人形は約50年前の土人形。子どもの頃、陸前高田市にある今泉の「まぢの日」で、毎年1体ずつ買ってもらうのが楽しみだった。震災前に、今泉の実家から末崎に持って来ていたため、被災を免れました。

□Hさん：昭和10年頃、末崎小学校前のよろず屋「まつのや」さんで買ったもの。2人の姉妹が喧嘩をしないようと、毎年、それぞれ同じ人形を1体ずつ買ってもらった。人形の裏には姉妹の名前が書き込まれている。瀬戸人形はそれより後に買ってもらったもので、裏には「王様印」というラベルが貼られている。当時、女の子のいる家では、泊まりがけのひな祭りが行われていた。女の子たちは自分の人形をもって友達の家を集まり、人形を飾りつけ、ご飯を食べ、一緒に泊まるという楽しいひな祭りを過ごしていた。

□Hさん：家で大切に保管している人形で、元々は姉の人形だった。自分は男性のため、当時どのようにひな祭りをしていてか覚えていないが、今では、毎年、ひな祭りに姉の人形を飾るのを楽しみにしている。

ひな祭りでは、近隣の方から貴重な高田人形をお借りし、展示することができました。もしこのような機会がなければ、誰にも見られることなく、家で眠っていたかもしれない高田人形。このような人形が公開され、そして、公開された高田人形を見て思い出話が始まるという点で、「居場所ハウス」という場所が地域に伝わるものを継承することの一助となったと言えるかもしれません。

地域の文化は、こうしたことの繰り返しによって継承されていくのだと感じます。

田中康裕（2014年3月8日のFacebookの投稿より）



■ふれあいキッズデー

2014年10月18日(土)、デジタル公民館まっさき主催の「居場所ふれあいキッズデー」が行なわれました。「居場所ハウス」には絵本を含め図書がたくさんあるのに、なかなか利用されていないという思いから、デジタル公民館まっさきの活動に参加されている3名の女性を中心となり準備してきた行事。第1回目のこの日は、図書にちなんでKさんが「泣いた赤鬼」の読み聞かせをしてくださいました。ポスターの赤鬼は、絵が得意なKさんの旦那さんが描かれたものとのこと。3人の女性は朝から集合し、打合せや会場の設営をしたり、近隣の子どもがいる家庭へチラシを持って行ったりしていました。

初めての企画でもあり、また、午前中は小学校で学習発表会も行なわれていたため、何人の子どもが来てくれるか心配でしたが、最終的には11人の子ども(と4人の母親)が参加してくれました。お孫さんを連れて来てくださったスタッフもいました。「子どもが来るといいねえ」とスタッフが話されていたように、子どもが集まると「居場所ハウス」も賑やかになります。

「居場所ふれあいキッズデー」は13:30からスタート。最初に子どもたちに名札を描いてもらい、順番に自己紹介。そして、Kさんによる「泣いた赤鬼」の読み聞かせ。今まで読み聞かせなんてしたことないというKさんでしたが、紙芝居の最後まで真正面に座って聞き入っている子どもも。紙芝居の後、もう1人のKさんが、手話を使ってお正月の歌を歌う方法を教えてくださいました。

最後に東京から送ってもらった駄菓子を食べました。「自分が子どもの頃は学校と家の間に駄菓子屋さんというのがあって、駄菓子を食べながら社会の勉強をしていたんだよ」というMさん。(小さな子どもにはこの意味が伝わらなかったかもしれませんが)末崎には子どもたちが放課後立ち寄れる駄菓子屋さんのようなお店はない。だからこそ、「居場所ハウス」のような場所が大切になってくるのだと思います。

駄菓子を食べて、14:30頃、第1回目の「居場所ふれあいキッズデー」は終了しました。この後、「居場所ハウス」が閉店する16時頃まで今日の反省と今後の活動に向けた打合せをされていました。

打合せでは、季節の料理を一緒に作るのはいかがでしょうか?話を一方的に聞くだけでなく、参加できる遊びもいいのではないかと?竹とんぼは、親の世代も体験してないので、そのような遊びこそ地域でやる意味があるのでは?などの意見も出ていたようです。

田中康裕 (2014年10月19日のFacebookの投稿より)



2015（平成27）年の出来事

月	日	出来事
1	7	「居場所ハウス」の鈴木軍平さん、紀室拓雄さんがフィリピン・オルモック市などを訪問（～1月11日）
1	10	デジタル公民館まっさき主催の「ふれあいキッズデー」として「小正月のミズキだんご作り」開催
1	未	キッチンカーでは毎日の食堂営業が困難であるため、屋外にカマドの保管も兼ねたキッチンの建設を始める
2	13	キッチンカーを返却
2	17	参加者有志による「歌声喫茶」が始まる
2	21	デジタル公民館まっさき主催の「ふれあいキッズデー」として「ひな祭り」開催
3	14	デジタル公民館まっさき主催の「ふれあいキッズデー」として「ぼたもち作り」開催
3	14	フィリピン・オルモック市からIbasho フィリピンのメンバー3人が「居場所ハウス」を訪問（～3月15日）
3	18	「居場所ハウス」の鈴木軍平さん、紀室拓雄さん、大和田和子さん、菊池則子さんが、東北大学で開催された3回国連防災世界会議のパブリックフォーラム「Elders Leading the Way to Inclusive Community Resilience」にパネリストとして参加
4	12	NPO 法人・さんりく WELNESS の熊谷侑希さんを講師とする「けんこう体操」が始まる
4	30	保健所から、屋外のキッチンで食事を販売するための「飲食店営業（軽飲食）」の営業許可が下りる
5	3	子どもの日・鯉のぼり祭り。屋外のキッチンを活用して食事を販売
5	8	食堂の営業を始める。食堂は「スマイル食堂」と名づける
6	14	二周年記念感謝祭
6	20	『居場所ハウスのあゆみ 2012-2014』（Ibasho）発行
6	27	日建設計ボランティア部のメンバーと逃げ地図作りのワークショップを開催
7	10	NHK クローズアップ東北「生活不活発病を防げ：被災地・高齢者の命を守る取り組み」で「居場所ハウス」が紹介
8	6	24時間テレビチャリティ委員会より、食堂用の設備などの寄付を受ける
8	11	和室に本棚を追加で設置
8	15	納涼盆踊り
9	3	NHK ハートネットTV「シリーズ誰もが助かるために 第3回 “生活不活発病”を防げ」で「居場所ハウス」が紹介
10	17	日建設計ボランティア部のメンバーと地域の課題と、それを解決する手がかりを発見するためのマップ作りワークショップ開催
10	21	Ibasho の清田英巳さんの訪問に合わせて、運営理念を振り返り、これからの運営を考えるワークショップ開催
10	22	「居場所ハウス」の紀室拓雄さんがフィリピン・オルモック市などを訪問（～10月29日）
11	14	農園の収穫祭・感謝祭
11	22	「居場所ハウス」の表で、農園から収穫した野菜の販売を始める
12	19	日建設計ボランティア部のメンバーと地域の課題と、それを解決する手がかりを発見するためのマップ作りワークショップ開催

■夏休みもの作り教室

2015年8月9日(日)、「デジタル公民館まっさき」と「居場所ハウス」との共催で夏休みもの作り教室を開催しました。作ったのはエコトンボ、竹のカブトムシ、タオルの縫いぐるみの3種類。エコトンボ、竹のカブトムシ作りを教えてくださいましたのは「どこ竹武蔵野三鷹 末崎グループ」の7人のメンバー。タオルの縫いぐるみを教えてくださいましたのはサポートセンターで週2回集まって手芸などを行っている「おたすけクラブ」の方々。

夏休み中ということで、地元の子どもたちだけでなく、親の実家に帰省している子どもたちも参加してくれました。九州から帰省中のお孫さん2人を連れてきた方も。13時にスタートした時点で子どもは15人、付き添いの祖母・父母は10人ほどでしたが、子どもはだんだん増えてきて最終的には25人ほどの子どもが参加。子ども、付き添いの祖母・父母、講師の「どこ竹」、「おたすけクラブ」メンバー、そして、「居場所ハウス」のスタッフと、50人以上でのもの作り教室となりました。

土間のテーブルではエコトンボ作り、和室ではタオルの縫いぐるみ作りを行いました。エコトンボは牛乳パックなどの厚紙をトンボの型に切り抜いて作ったもの。完成したものを枝の上に置くとバランスがとれ、まるでトンボがとまっているように見えます。「どこ竹」の方が描いた型にそって、子どもたちは紙を切っていきます。最後に、バランスがとれるよう紙を微調整。好きな色を塗って完成です。タオルの縫いぐるみで作るのは犬、ウサギ、小トトロの3種類。タオルを折って、輪ゴムでとめるだけで縫いぐるみが完成です。

エコトンボ、タオルの縫いぐるみを作り終わった後、みな土間のテーブルに移動して竹のカブトムシ作り。竹をカブトムシの胴体の形に切り抜き、バーナーであぶってカブトムシの色にします。胴体を開けた穴に竹の枝の足と角をつけて完成です。このように書くと簡単ですが竹を胴体の形に切り抜くのは時間がかかるので、もの作り教室では胴体に足、角をつける作業だけ行いました。子どもたちは「どこ竹」のメンバーに教えてもらいながら、足、角をつけていきます。ただ、小さな子どもにはちょっと難しかったようで、付き添いの父母の方が熱中して作るという光景も見られました。予定では15時まででしたが、15時半頃まで延長となり、参加者は竹のカブトムシを完成させました。

「どこ竹」の村上さんは1ヶ月ほど前から何度も「居場所ハウス」に足を運び、もの作り教室の打合せ、準備などをしてくださいました。竹をカブトムシの胴体の形に切り抜いてくださったのも村上さんです。そして、当日、「居場所ハウス」の外では「どこ竹」のメンバーがカブトムシ胴体に足と角をつけるための穴を錐で開けるといふ裏方の仕事をしてくださっていました。タオルの縫いぐるみ作りも、サポートセンターで早くから企画、準備を進めてくださいました。

「居場所ハウス」はあらゆる世代に開かれた場所。学校がある時期は、10時～16時という運営時間帯もあり、子どもたちはあまりやっ来て来ませんが、夏休みもの作り教室には予想以上に多くの子どもたちが参加してくれました。何人くらい来てくれるかという心配が杞憂に終わり本当に良かったです。参加してくれた子どもたちにとって夏休みの思い出の1つになれば、そして、夏休みの宿題に少しでも参考になればと思います。

「どこ竹」の1人は「今日のは良かったんじゃないの。ずいぶん親子が参加して、〇〇さん、〇〇さんのおかげで。夏休み中だしちょうど良かったんだねえ」と話しておられました。「居場所ハウス」や「どこ竹」、「おたすけクラブ」のメンバーにとっても、子どもたちと一緒に過ごした充実した時間になったと思います。

田中康裕 (2015年8月10日のFacebookの投稿より)

■まちの居場所が出来事の重なりと関係の広がりを生み出す

「居場所ハウス」には様々な人々が訪れ、訪れた人々は様々なことをして過ごしています。昨日（2015年11月22日）は朝からボランティアの「おたすけ隊」メンバーが、花壇にナデシコの花を植えてくださいました。午後からは震災後ずっと仮設住宅等に通り続けている方々の主催によるヨーガ・セラピー。農園からは収穫したばかりの野菜も届きました。今日は行事の予定はない日でしたが、ノートパソコンを広げている人、裁縫をしている人も見かけました。

昨日、今日は連休ということもあり、普段見かけない人の来訪がありました。近所に住んでいて、いつものように顔を出してくださる方の娘さん夫婦が昼食を食べに来てくださいました。娘さんは、「居場所ハウス」にいた1人の女性に「先生ですよ」と声をかけていました。かつての教え子だったようで、思いがけず久しぶりの再会。他にも、メンバーの親戚が東京からやって来たり、メンバーの娘さん・お孫さんがやって来て表で記念撮影したり、「居場所ハウス」の近所に実家がある人が帰省したり。

「居場所ハウス」がなかったとしても、自宅に子どもや孫が訪ねてくることはあります。自宅でパソコンをしたり、裁縫をしたりする行為は行われます。けれども、自宅で行われているだけであれば、これらの1つ1つが広がりを生む状況は生まれなかった可能性があります。地域の人々の出入りがある「居場所ハウス」という具体的な場所があるからこそ、教え子との久しぶりの再会があったり、帰省した人と顔を合わせることができたりしますし、「あの人が〇〇をしている」と地域の人々のことを知るきっかけになったり、話をするきっかけになったりする。

様々な出来事が重なりあっていくことで、思いがけなかった関係の広がりが生み出されていくこと。これが地域に具体的な場所（まちの居場所／コミュニティ・カフェ）があることの意味だと思います。こうした出来事の重なりによって、関係が網の目のようにあちこちに広がっていく状態こそが、地域というものではないか。そのようなことを感じた2日間でした。

田中康裕（2015年11月23日のFacebookの投稿より）



2016（平成28）年の出来事

月	日	出来事
1	11	デジタル公民館まっさきとの共催で「郷土の歴史を学ぶ会」開催
1	未	lbasho を介して、フィリピン出身の看護師が多数所属するアメリカ看護師協会から寄付された健康ベンチ、ぶら下がり器を設置
2	21	ひな祭りお茶会
3	6	手芸教室を始める
3	26	道路側の壁面に委託販売・展示用の棚を設置
3	27	高知県の形見さん、塩田さんによる文旦を使ったジャム作り講習会を開催
4	16	「居場所ハウス」周囲に高台移転してきた人々を招いての交流歓迎会
4	22	「困り事何でも相談会（行政書士・看護師）」を始める（以降、随時開催）
5	3	子どもの日・鯉のぼり祭り
6	17	食堂のメニューにラーメンを追加
6	18	三周年記念感謝祭
6	25	日建設計ボランティア部のメンバーと地域のモビリティを考えるためのワークショップ開催
7	10	山岸仮設の元住民とヨガ・セラピーの講師による食事会が開かれる
8	13	納涼盆踊り
10	22	ネパール・マタティルタ村の lbasho ネパールのメンバー 5 人が、ネパール政府関係者、世界銀行のスタッフらと共に「居場所ハウス」を訪問（～10月23日）
11	19	日建設計ボランティア部のメンバーと地域の交通を考えるワークショップ開催

■子どもたちが大人の世界を垣間見ること

2016年5月17日（火）のお昼過ぎ、「居場所ハウス」に末崎中学校の女の子3人が来てくれました。昨日、今日と末崎中学校は授業参観、運動会の振替休日。3人は勉強をしに来たとのことでした。

13時半からは歌声喫茶が行われることになっていました。歌声喫茶は、地域住民の有志によって2015年2月から毎月欠かさず続けられています。女の子に、「昼から歌声喫茶でうるさくなるから、勉強に集中できないよ。〇〇の方が静かだと思うよ」とメンバーが声をかけましたが、「静かな所の方が集中できない」と女の子。うるさくても大丈夫だということで、土間のテーブルで勉強を始めました。

13時半からは予定通り歌声喫茶がスタート。この日の参加者は12人。歌声喫茶の参加者は少しずつ増えているようで、今日初めて参加した方もいました。写真のように土間部分の手前のテーブルでは女性たちが話し、奥のテーブルでは子どもたちが勉強。そして、和室では歌声喫茶。多世代の人々が居合わせる光景を見たメンバーの1人が、「本当に居場所みたいだなあ」と喜んでいました。

女の子たちはアイスクリームを食べたり、コーヒーを飲んだりしながら勉強をしていました。勉強が終わり、1人が帰った後、残った2人は土間にあがって歌声喫茶の様子を覗き込んでいました。参加者が「好きな曲を言って」と曲目リストを渡したところ、女の子たちが選んだのは「潮騒のメモリー」。歌声喫茶の参加者たちは、2人が歌うのを聞き、歌い終えた後はみな拍手。女の子たちが歌ったのは1曲だけでしたが、歌い終えた後も歌声喫茶の様子を覗き込んでいました。

子どもたちを対象とするイベントというと、主役である子どもたちを中心としてイベントが進行します。けれども、この日の歌声喫茶の主役は大人たち。子どもは主役ではありませんでしたが（ゲストとして少し参加しただけでしたが）、だからこそ、子どもたちは地域の大人たちの世界を垣間見ることができたのだとも言えます。この様子を見ていて、子どもたちにとっては、このような機会も意味あることだと感じました。

この日もメンバーのKさんが「居場所ハウス」の農園からほうれん草、山東菜などを収穫して来てくださいました。歌声喫茶の参加者たちは、「居場所ハウス」の前で販売していた野菜を買って帰ってくださいました。

田中康裕（2016年5月20日のFacebookの投稿より）



2017（平成29）年の出来事

月	日	出来事
2	11	ひな祭りお茶会
2	12	山岸仮設の同窓お茶っこ会
2	18	日建設計ボランティア部のメンバーと今後の運営を考えるための意見交換会開催
3	1	末崎地区サポートセンターの閉鎖に伴い、参加者有志により自主的な「居場所健康クラブ」が開催
3		「居場所ハウス」のロゴマークを作成し、ロゴマークを使ったパンフレットを作成
4	3	一般社団法人・子どものエンパワメントいわてによる「学びの部屋」が始まる。「学びの部屋」はそれまで仮設住宅で開かれていた。以降、毎週月・火・金の夜間に開催
4	5	「居場所ハウス通信」第1号を発行し、末崎町内に全戸配布。以降、毎月発行
5	3	子どもの日・鯉のぼり祭り
5	10	今月から「居場所健康クラブ」はNPO法人・居場所創造プロジェクトの主催として継続される
5	17	この日から「居場所健康クラブ」が「居場所健康サロン」と名称を変更
5	29	ノルディック・ウォーキングを始める
5	31	「どこ竹 in まっさき」による竹とんぼ作りを開催。NHK「きらり！えん旅」で訪問した水森かおり（歌手）の取材を受ける
6	17	四周年記念感謝祭
7	25	NHK「きらり！えん旅」内で、「居場所ハウス」の竹とんぼ作りの様子が紹介
8	4	夏休み居場所っこクラブ
8	15	納涼盆踊り
9	22	山岸仮設の同窓お茶っこ会
10	3	「デジタル公民館まっさき」のメンバーをまじえての、「居場所ハウス」のこれからを共に考え・共に学ぶ会を開催
10	18	IBC 岩手放送「わが町バンザイ」内で、「居場所ハウス」の歌声喫茶の様子が紹介
10	28	秋の居場所っこクラブ
12		椿の種のからむき作業を始める



手芸教室



鯉のぼり祭りの準備終了後の食事の様子

■山岸仮設の同窓お茶っこ会

2017年2月12日(日)、「居場所ハウス」にて山岸仮設(山岸団地)の同窓お茶っこ会が開かれました。山岸仮設は末崎小学校の校庭に開かれた仮設住宅。同窓お茶っこ会は山岸仮設での暮らしを通して築かれた関係を大切に継承したいという思いから開かれることになったもので、2016年7月10日に次ぐ2回目の開催となります。

この日の同窓お茶っこ会には31人(男性10人、女性21人)の出席がありました。31人のうち2人は支援員の方、4人は山岸仮設の集会所で約5年にわたって月2度のヨガ・セラピーを開いてくださった講師の方です。

同窓お茶っこ会の準備を中心になって進めた山岸仮設レディースクラブ(婦人会)の役員の方からは、既に山岸仮設はなくなったけれど、「『復興』という言葉では言い切れない思いをもった方が、今日、集まってくれたと思います」という挨拶がありました。

ヨガ・セラピーの講師の方からは、「末崎に親戚ができたようで、末崎中学生がワカメの早どり体験をしたなど、ニュースで末崎の話題が流れると目にとまります」という挨拶。支援員の方からは、このように多くの人が集まって驚いたこと、みな元気な顔を見て安心したこと、そして、ヨガ・セラピーの先生にはヨガを教えてもらっただけでなく暖かい心をいただいたという挨拶がありました。

食事の後、歌や踊りによる余興。門之浜の2人による「祝酒」、小細浦の5人による「花笠音頭」、有志による「どや節」の踊りなどが披露されました。小細浦の方は、この日のために公民館に何度か集まって練習されたとのこと。最後に全員で「さくら音頭」を踊り、「ふるさと」を合唱しました。

山岸仮設の集会所の壁には、山岸仮設での暮らしや活動の様子を撮影した写真、支援に来られた方との記念写真などが貼られていました。写真を壁に少しずつ貼っていったところ、壁が足りなくなり、集会所の壁を何周かしたという話を伺いました。山岸仮設が閉鎖された後、写真は7冊のアルバムに綴じて、支援員の方が保管してくださっていました。同窓お茶っこ会では7冊のアルバムを回覧。アルバムのページを1枚ずつめくって、じっと写真を見ておられる方もいました。

田中康裕(2017年2月13日のFacebookの投稿を一部編集)



■自主的な健康クラブ

「居場所ハウス」で最も長く続けられている活動は健康クラブです。2013年9月4日（水）に1回目が開催されて以来、毎週水曜の午前中に開催。末崎地区サポートセンターの主催により継続されてきた活動で、最初の頃は新潟から末崎地区サポートセンターに支援に来られていた方々の参加もありました。

サポートセンター（高齢者等サポート拠点）は「震災で被災された要援護高齢者などを中心に、市内全域の皆さんの生活支援や地域の人との交流を手助けし、安心な日常生活を送ってもらうことなどを目的として設置」されたもので、2012年6月15日（金）、大船渡市内の4ヵ所に開設（『広報大船渡』No.985 2012年6月20日号より）。末崎地区サポートセンターは当初、末崎町デイサービスセンター内にあり、2013年4月2日（火）から末崎中学校前の仮設の建物に移転し活動が行われてきましたが、2017年3月末で閉鎖。

末崎地区サポートセンターの閉鎖に伴い、「居場所ハウス」の健康クラブも2017年2月末で一旦終了となりました。

末崎地区サポートセンターが主催する健康クラブが終了した翌週の3月1日（水）、健康クラブ参加者の何人かが自主的に集まり、自分たちでできる範囲での活動を行っておられました。これを受けて、2017年3月からは参加者有志と「居場所ハウス」のスタッフによる自主的な活動として健康クラブを継続することとしました。

2月末の時点では、健康クラブを自主的に行うことを話し合っていたわけではありませんでしたが、3月以降も集まってこられた参加者有志の思いを受け、自主的な健康クラブとして継続することとなりました。

今日、4月5日（水）も5人の参加者が集まり、「居場所ハウス」のスタッフからも交えた自主的な健康クラブが開催。天気が良かったため表でラジオ体操をした後、パズルをしたり、お茶を飲んだりして時間を過ごしました。1人の方からは手作りの漬物、ラッキョウの差し入れも。午後から、参加者のOさんが末崎町の泊里地域（基石地区）に伝わる「アイヤ」という踊りを教えてくださいました。Oさんの話では、「アイヤ」は中森熊野神社の式年大祭の時に、道中踊りとは別に踊ったとのこと。

これからも「アイヤ」をみなで練習して、何かの機会に披露しようという話も出ていました。

健康クラブを開催していた時、委託販売コーナーの前のテーブルでは、元新聞記者の方がスタッフのKさん取材。Kさんは、毎朝、子どもたちの登校の安全確保などを行う交通指導隊を10年間務めた方で、2017年3月末で交通指導隊を退任されました。

田中康裕（2017年4月6日のFacebookの投稿より）



2018（平成30）年の出来事

月	日	出来事
2	18	ひな祭りお茶会
4	2	この日から、一般社団法人・子どものエンパワメントいわてによる「学びの部屋」が「学びの時間」と名称を変更。以降、毎週月・火・金の夜間に開催
5	3	子どもの日・鯉のぼり祭り
5	15	県政懇談会「がんばろう！岩手」で活動を報告
6	16	五周年記念感謝祭
6	19	「居場所ハウス」の紀室拓雄さん、上部博子さん、古民家提供者の小澤睦子さんがフィリピンを訪問。Ibasho フィリピン、Ibasho ネパールのメンバーらとともに、世界銀行・アジア開発銀行が主催するセミナー、オルモック市などを訪問（～6月26日）
7	4	米国ノースイースタン大学の学生ら23人の視察研修（1回目）
8	15	納涼盆踊り
8	19	復興大臣感謝状を授与。大槌町で授与式

2019（平成31・令和元）年の出来事

月	日	出来事
2	11	ひな祭りお茶会
5	3	子どもの日・鯉のぼり祭り
6	15	六周年記念感謝祭
6	28	今月より毎月1回、大船渡市内への買い物送迎を始める。マイクロバスは社会福祉法人・典人会より借用
7	8	米国ノースイースタン大学、東北大学の学生ら30人の視察研修（2回目）
8	9	グランドピアノを陸前高田市に再建されたジャズ喫茶「h. イマジン」に返却
8	15	納涼盆踊り
8	28	陸前高田市のジャズ喫茶「h. イマジン」から電子ピアノが寄贈
11	29	JCBより軽ワゴン車が寄贈
12	23	復興庁による「令和元年度『新しい東北』復興・創生顕彰」を受賞

2020（令和2）年の出来事

月	日	出来事
2	11	ひな祭りお茶会
2	14	復興庁による「令和元年度『新しい東北』復興・創生顕彰」の授賞式が仙台で開催
4	27	ゴールデンウィークの休み。今年は新型コロナウイルスのため休みの期間を長くし、「子どもの日・鯉のぼり祭り」も中止とする（～5月6日）
4	末	「居場所ハウス」の表に、農園で収穫した野菜の無人販売所を設置
5	15	以前から朝市に出店していた一ノ関の八百屋による野菜の販売を開始。以降、5と10のつく日に販売
7	20	新型コロナウイルスへの対応として、見守りを兼ねたお弁当の配達を始める
8	8	新型コロナウイルスのため中止した納涼盆踊りに代わり、「子どもの広場&朝市」開催
9	15	表の野菜の無人販売所を撤去
11	11	盛岡市の田中さんよりスタンドピアノが寄贈
12	13	社会福祉法人・読売光と愛の事業団による第18回読売福祉文化賞を受賞

2021（令和3）年の出来事

月	日	出来事
2	7	末崎町内で新型コロナウイルスのクラスターが発生したのに伴い、感染拡大防止のため臨時休館（～2月14日）
2	28	ひな祭り
3	13	ピザの日を始める。2021年2月から始める予定だったが、新型コロナウイルスの影響で今月からの開始となった
3	24	IBC岩手放送「わが町バンザイ」の2時間スペシャル「復興10年 三陸を歩く 福田こうへいさんとぶらり旅！」内で、「居場所ハウス」が紹介
3	30	2017年4月から一般社団法人・子どものエンパワメントいわてにより続けられてきた「学びの時間」が終了
4		毎週水曜日の「居場所健康サロン」は、今月から任意団体「居場所健康サロン」の主催として継続
5	1	鯉のぼり子どもの広場
5	18	手芸教室は、この日から新たな講師で継続される
6	12	八周年記念として映画『東北おんぼのうた：つなみの浜辺で』の上映会を開催
7	25	末崎小学校ミニバスケ部によるバーベキューの会
9	21	一般社団法人・子どものエンパワメントいわての「学びの時間」が再開。以降、毎週火・金曜に開催
12	24	定例会にあわせて、「居場所ハウス」の課題と今後の運営について話し合う1回目のワークショップを開催。ワークショップはいわて連携復興センター、大船渡市市民活動支援センターの協力で開催

■映画上映会

居場所ハウスは2013年6月にオープン。今年でオープンから8周年を迎えました。

8周年記念となる行事をコロナ禍のためあきらめつつあった5月中旬のある朝、東海新報紙面で『東北おんぼのうた:つなみの浜辺で』という映画の紹介を見て、居場所ハウスでの映画会を思いつきました。近々市立図書館に貸し出し用DVDを寄贈くださるとのことなのです！

すぐパンフレットを検索したところ、「制作協力者」のところに知った方のお名前……居場所ハウスに月に一度ノルディックウォーキングを指導しに来てくださっているKさんなのです！ さっそくKさんにお電話して企画制作者の新井高子さんに繋いでもらい、上映を快く許可していただきました。

前日から会場準備。昨年宮古シネマリーズさんが映画『山懐に抱かれて』を上映してくださった時のノウハウをお借りして、黒マルチで目張りをして丁寧にわか映画館づくりです。さらに前々日に思い立って、来場者にお餅を差し上げたいとスタッフのSさんに持ち掛けて、急にもかかわらず作ってもらったお餅をプレゼントすることができました。

映画は石川啄木の短歌の気仙弁朗読などから始まり、高齢のおんぼたちのそれぞれの鮮明な昔の思い出や海に対する感情などを、穏やかにそして元気にそれぞれが語ってくださっていて、こちらも時おりつられて笑ったり思わず涙するところがあったりととても心に響く作品でした。観た方々も口々に「いい映画だったね～」と言いながら帰って行かれました（居場所ハウスのドキュメンタリー10分も上映しました）。

今回の映画祭は、偶然の出会いと、色々な方々とのバトンが次々とつながって、みなさんのご協力とお知恵をお借りしながら、居場所ハウスらしく手作りの8周年記念行事とすることができました。新井高子様、Kさん、お手伝いくださった皆さま、本当にありがとうございました。

居場所ハウスは、来年の9周年に向けてまた頑張っていきたいと思います。

松澤登美子（2021年7月11日のFacebookの投稿より）



2022（令和4）年の出来事

月	日	出来事
1	19	テレビ岩手「ニュースプラス1いわて」で「イーハトヴの5つのものがたり その4 居場所ハウス（前編）」が放映
2	25	定例会にあわせて、「居場所ハウス」の課題と今後の運営について話し合う2回目のワークショップを開催。ワークショップはいわて連携復興センター、大船渡市市民活動支援センターの協力で開催
2	27	ひな祭りお茶会
3	19	テレビ岩手「ニュースプラス1いわて」で「イーハトヴの5つのものがたり その5 居場所ハウス（後編）」が放映
4		ワカメ作業や農作業などの合間に食べることのできる「おやつ」の配達を始める
4		今月から、第3日曜日は食堂を休業日とする
5	1	鯉のぼり子どもの広場
6	12	九周年記念感謝祭
6		東日本大震災伝承紙芝居「ワンコとともに救われた命」の作成を始める
7	25	東北地方郵便局長協会より、柿の皮むき機、行事用調理機器、揃いのエプロンが寄贈
10	12	「ふるさとセンター」で、居場所健康サロンと老人クラブ合同のボッチャ大会開催
11	25	定例会後、消防士を講師に招いてAEDを使った救急講習会を開催

■居場所ハウスの朝市で末崎中学校のわかめ販売

末崎町はわかめ養殖の発祥の地です。

居場所ハウスのすぐそばにある末崎中学校は、20年前から、地域を支える漁業への理解を深めようとわかめの養殖体験に取り組んでいます。

1年生の時から、真冬の寒い時期に船で海に出てわかめの種巻き、間引き、収穫、そして加工、芯抜きと作業を進め、2年生ではそれを自分たちで袋詰めを行って、盛岡市内の商店街で販売するのです。末崎中学校のわかめは早採りなので、とても柔らかくて美味しいので、盛岡でも毎年すぐ完売しているとのこと。

漁港やニュースでその姿を見てはいたものの、地元では口にできなかった末崎中のわかめを、今回初めて地元で販売する、そのデビューの場所に居場所ハウスの朝市を選んでいただきました！

朝8時半、11人の生徒さんたちが販売台に立ち、明るく元気な声で「おいしいわかめはいかがですかー」と呼びかけ、次々に買われていきました。周りの大人たちも子どもたちのたくさんの笑顔で、気持ちのいい朝市となりました。

末崎中学校はとなりの大船渡中学校との合併計画で廃校となる予定でしたが、進んだり戻ったりで、今も子どもたちは居場所ハウスに立ち寄ってくれたり、登下校の姿を身近に見せてくれています。

統合になってしまったらこのわかめ体験の伝統や、中学生の生の姿を見られなくて寂しくなるなー……としみじみ思います。

松澤登美子（2022年10月18日のFacebookの投稿より）

2023（令和5）年の出来事

月	日	出来事
1	9	大船渡市市制70周年記念事業の一環としてリアスホールで開催された「認知症講演会」の「認知症トーク」に理事長がパネリストとして参加し、「居場所ハウス」の活動を紹介
2	26	ひな祭りお茶会
4	18	新型コロナウイルスにより休止していた有志による「歌声喫茶」が開催
4	30	鯉のぼり子どもの広場
6	11	十周年記念感謝祭。東日本大震災伝承紙芝居「ワンコとともに救われた命」を披露。十周年にあわせて新たなスローガンを「連携・協調・みんなが主役」とする
6	13	テレビ岩手「ニュースプラス1いわて」内で、十周年記念感謝祭の様子が紹介
8	12	納涼盆踊り
9	10	仙台で開催の「三宅民夫と考える長寿の未来フォーラム：健やかさの種をさがす」（主催：NHK厚生文化事業団、NHKエンタープライズ）に理事長がパネリストとして参加（※2024年1月19日、NHK「老いの孤独 どう乗り越える？ 老人戦隊と居場所ハウス」として放映）
11	17	岩手県議会・東日本大震災復興特別委員会による現地調査
12	15	岩手県から「令和5年度元気なコミュニティ特選団体」に認定

■ 椿のカラむき

大船渡市と三面椿舎との提携で、居場所ハウスが回収場所となり12月までに椿の種を回収したところ、330kgもの量が集まりました。不作の昨年に比較してかなり多い量です。それを乾燥させたものから中身を取りだし高級椿オイルの原料とするために、1月下旬からカラむき作業を行っています。1月25日の定例会の終了後もみんなで会話をしながら剥きましたし、自宅での作業を請け負ってくれている方々もいます。気仙地方の自然資源を有効活用し、産業につなげるための大事な活動の一環です。居場所ハウスは作業手数料をいただき、光熱費や衛生消耗品等の資金として役立てています。

電気料金や灯油代の値上がりで少しでも暖房費の節約をしたいこの頃ですので、顔なじみのシニアの皆さんには、「居場所ハウス内は薪ストーブで暖かく過ごせるので、お気軽に立ち寄って「話しっこだり・お茶っこ飲み」などしながらカラむきにご協力してくれませんか？」と呼びかけています。

多くの人に会い、会話を交わし、手や体を動かすことにより脳は活性化すると思われるので、一人でも多くの方に「笑顔」・「ふれ合い」・「楽しく」そして「役割をになう」の時間を居場所ハウスで過ごしていただけるといいなと思います（そしておうちの暖房費も節約できて一石二鳥！ですね！ 協力者が増えますように・・・）。

松澤登美子（2023年1月28日のFacebookの投稿より）



スタッフ日誌にみる 10 年の歩み

■おたすけみんなで持ち寄りし、「ごま団子、しょうゆ団子、あんこ団子、うどん煮」で昼食する。居場所立ち寄りの人も「わきあいあい」と楽しく過ごす。台風もさり、静かになり、午後からはれていく（2013年10月26日）

■朝、居場所の畑にて白菜、大根の収穫。凍っていたので大根はしみ大根と切り干しに！（2014年12月16日）

■東京からデジタル公民館まっさき関係者多数おいでになり、昼食と研修が実施された。居場所農業体験会に市役所他県派遣員6名様協力していただき、ほうれん草、水菜、じゃがいも、小松菜等を収穫した。（2015年7月11日）

■末小6年生がふるせんにいったらことわられたという事で多数遊びに来た。ほとんどゲームに熱中。あとかたづけ、挨拶などきちんとして帰った。迎えに来たお母さん「みんなで一緒に居られる場所があって良かった」と話して帰りました。子供たちにとっても居ごちのいい場所になりたいと思いました。（2015年10月25日）

■今日は、どんな日になるかと居場所にきました。午前中は雨降り、のち予報通り晴れてくる。居場所におとずれる人は、みんなにこにこしていいね。楽しく過ごすことができ居場所に感謝です。（2016年5月27日）

■朝から暑いと思わせる天気。居場所の中に入ると涼しくほっとすると、お客さんが喜んでいました。（2016年5月30日）

■余ったほうれん草、春菊をさっと湯通しして冷凍してみました。野菜の不足する時期に使えたら良いと思って実験してみました。（2016年6月3日）

■公営住宅の引っ越しぼちぼちはじまってきたようだ。午前中は本当にしずかな日でした。午後はコーヒーのみの来訪者など新顔の人もぼちぼち。なんといいところでしょうという人が多いね。（2016年6月4日）

■風もなく本当に気持ちの良い1日でした。白菜干し、切り干し大根干し。新聞にくるんだり保存用にします。（2016年12月3日）

■居場所の中、水木団子でかざりつけ6カ所、たのしく作りました（だるまとかえびす様とか七福神などのかざりものがどこさがしてもなく、やっこさんとか折りづるなど色紙で手作りする）（2017年1月9日）



2013年10月26日



2014年12月16日



2016年5月30日



2016年12月3日

■中国本場のギョーザ作り教室は、中国研修生7人。Sさん(高校2年生)の企画により、22名の参加でにぎやかに楽しい交流となり、大変良かったです。次回も機会があったら開催したいとの声あり、何時でも気軽に立ち寄ってほしい旨伝える。(2017年3月26日)



2017年3月26日

■今日は末崎保育園の運動会など行事が多い土曜日で朝市のお客様は少なくどうしようかと思っていたら昼食のお客様が多く、油断していたら、まあ大変。でも皆さんの力でとてもスムーズに昼食ランチも大盛況良かった。本当に良かった。(2017年9月16日)

■今日は老人クラブの方々の協力を得て、水木団子作り体験を実施した。あわせて、きなこもち作りを、うすときねを使って、子ども達もつく体験ができた。2~3年の子ども達は重いきねを振りあげたり、初めての体験に大にぎわい。満足そう。(2018年1月6日)



2018年1月6日

■可愛い保育園児、先生2名と運転手さん1名で、11時過ぎにやってきました。皆んな楽しそうにお行儀よく過ごしました。ちょうど側に居たスタッフにお礼を言ってくれて、嬉しい気持ちになりました。「今度はパパママと来てね」と話したらうなずいてくれて、とても可愛かったです。(2018年3月8日)



2018年3月8日

■3.11の震災から7年がたちました。居場所に来た方々の話しは、あの日のこと。皆んなそれぞれ大変な思いをしたようで、話しは尽きませんでした。亡くなった方々のその時の事を思うと悲しいです。どんなに怖い思いをしたでしょうか。皆んな大変な思いをしましたが、居場所は心が落ちつけるホッとする場所です。(2018年3月11日)

■今日は時々雨が降って肌寒い日でしたが健康サロンの方々が、輪投げ等大変楽しそうに盛り上がっていました。新たけのこの味付けごはん、こんにゃくの酢みそあえ、きんぴら、ほうれん草のあえもの等のお楽しみランチも好評でした。午後は昔のアルバムを見ながら語り合っている姿はほほえましかったです。(2018年5月9日)



2018年3月11日

■今日は今夏一番の暑さで夏休みの子供たちがソフトやかき氷等を求めて来ました。健康サロンの方々は涼しいクーラーのきいた所で思いっきり体を動かしたり大笑いをしながら楽しく過ごして、早々に帰って行きました。〇〇さん、〇〇さん、〇〇さんはつばきの実の殻取りをして、いつもごくろうさまです。(2018年8月1日)

■処暑も過ぎて、今日は秋風のようにさわやかな気持ちの良い風が吹いています。〇〇さんが持ってきたオクラの花の大きさ・美しさに皆でびっくりしました。早速酢を入れた熱湯でしゃぶしゃぶにして試食しました。おいしさにも驚きました。花なのにオクラそのものの味だったのです。(2018年8月27日)



2018年8月1日

■今日の水木団子作りは早々に沢山の人が集まり居場所が久しぶりににぎやかでした。老人クラブの2名 高校生3人のボランティアもテキパキと動いて皆が楽しく生き生きと頑張りました。みたらし団子にして皆と一緒に会食しましたが、一段とおいしくとても良い行事だと感じました。(2019年1月9日)



2019年1月9日

■コロナウイルス対策のためいろいろな行事が中止になっている中、久しぶりの体操教室だったからか13人と大盛況でした。座ってする足やうでのストレッチと脳のトレーニングでした。午後はおひな様片づけを総勢7人で行った。(2020年3月15日)



2020年3月15日

■学童保育の子供たちが七夕かざりつくりでにぎわった。昼食は夏野菜カレーをごちそうになり「メッチャ美味しい」と歓声でした。婦人会の方々にもお手伝いいただきありがとうございます。テイクアウトのお客さんも見られ、あぶり井2持ちかえり。おかず配食1あり。(2020年8月1日)

■「朝市&子ども広場」開催!! 今年はコロナ禍のため、子どもの日も盆踊りも中止のため、8月の朝市を拡大して「子ども広場」と合同としました。あいにくの雨の予報でハラハラしましたが、大きな雨もなく、一時陽も差し、子どもも2~30人来て良かったです。フライドポテト100円、いかポップ200円おいしく作ってもらいました!! お疲れ様でした。(2020年8月8日)



2020年8月1日

■朝市の準備の日で、朝から男の人たちが手伝いに見えられておりましたが、土曜日は天候が雨ということで、テント設営はなくなり、椿の実をむく手伝いをして行きました(2021年4月16日)

■今日は風もおだやかで、鯉のぼりの下で気持ち良く体操しました。さし入れの秋田ふき、わらび等、初物もおいしい一品になって、沢山食事を召し上がる人達が来て良かったです(健康体操の方々4名、婦人会5名等)(2021年4月28日)



2020年8月8日

■夕方より星の観察会。天体望遠鏡2台、星読みサークル「朔」3名。初めはスクリーンで現在の星座についてお話をきく。参加者はめったにない体験で楽しそうに望遠鏡をのぞいていた。金星、土星、木星。月は19:00頃より出てきた。月見台は今回使用せず。雲ひとつない空に恵まれた。夕飯におにぎり2ヶ+すりみ汁を用意していただき、喜ばれた(2021年10月24日)

■柿むき、くん蒸、つるし作業。総勢13名で行った。東海新報の取材もあり、午前中はにぎやかで楽しくやった。午後は疲れて口数がへったようです... ともあれきれいな柿のれんで2200個ほどつるした。(2021年11月4日)



2021年11月4日

■末崎ミニバス新団員歓迎会バーベキュー会では、にぎやかに楽しく実施した様子です (2022年7月24日)



2022年7月24日

■今日は十五夜。玄関に、すすき、萩、コスモスを生けてもらいました。他にきつまいもや、梨、栗など十五夜らしい食材が並び、季節を感じることができた。(2022年9月10日)

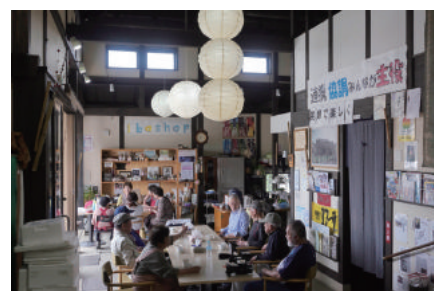
■末崎中学校2年生が自分たちで作ったまっさきわかめを販売した。とても元気ににぎやかに呼びかけをし、1時間で販売。いい企画だった。地元で初の販売だそうで、また続けてくれるとよい。(2022年10月15日)



2022年10月15日

■〇〇さんがおひな様にあげるうぐいすもち、桜もち(若松製)をもってきて、幼いころのおひな様の思い出を語ってくれた。こんな話のあれこれを語りついでいくべきだな~と思った。(2023年2月12日)

■久しぶりに〇〇さんがきて(滝田医院帰り)、昼食と種むきをしていった。孫の結婚式の写真をいっぱい持ってきて見せてもらった。マイバスが3月中休みとのこととどこへも出かけず家にいるばかりとのこと。居場所の買いものバスに誘ったが、居場所まで来ることができないのかも(2023年3月7日)



2023年6月12日

■軒先にツバメが来ていた。入口の開閉に気をつけないといけない。〇〇さん、コシの強いうどんにとっても感動してました。そば派だったけどしばらくはうどんにはまりそうだとの事(2023年4月28日)

■10周年感謝祭の後片付け。朝早くから会員の皆様がかけて下さり感謝です。少し雨にあったけど無事すごされて、疲れもふきとんだ感じです。皆様遠くからもお出になられて、なごやかに居場所の歩みを見聞きしていただき、ありがとうございます。これからもよろしく願いいたしたいと思います。館長ご苦労様でした。また今日から一歩づつですね。(2023年6月12日)



2023年10月10日

■平のお祭りについて、〇〇さんは屋台の飾りの花、〇〇さんは子供の衣装(まわし)を探しに... 居場所はいつでも「ここにすればなんとかなる」と思われて、頼りにされている。明日から花づくりをすることとなった。(2023年10月6日)

■今日は朝から5~6人で花づくり。2時半頃には全部完成し、650ヶくらい作った。みんなで、口と手を動かして行う作業はとても楽しげで「あとないの?」と言われるくらいでした。(2023年10月9日)



2023年11月8日

■柿の収穫をする。男性6人。お昼を食べ、午後また続き、2:30頃まで(2023年11月8日)

東日本大震災伝承紙芝居 「ワンコとともに救われた命」

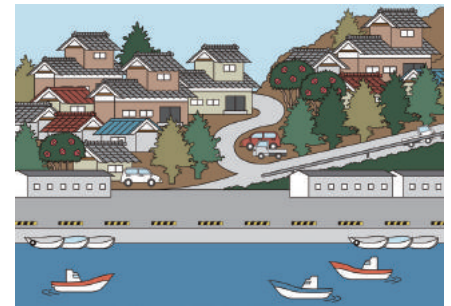
- 文：(原作) 大和田恵美子 (編集) 古座浩美・松澤登美子
- 絵：すみがまなるみ (カリタス大船渡ベース)
- 協力：大船渡市民活動支援センターほか
- 制作・発行：居場所創造プロジェクト
- 発行日：2023年6月11日
- 助成：公益財団法人大阪コミュニティ財団 2022年度助成



平成23年3月11日、東日本大震災が発生し、末崎町は震度6弱の大地震と最も高いところでは14mの大津波に襲われ甚大な被害を受けました。

これは、襲ってきた津波に飲み込まれ、屋根の隙間に押し上げられ、がれきに足をはさまれて海水に頭までつかりながら愛犬と一緒に抱き合っ
て必死に大声で助けを呼び、やっとのことで助けられた女性の津波体験談です。

【1】 末崎町の大和田恵美子さんは、泊里（とまり）漁港から200mほど離れた、道路から一段と高い所に住んでいました。



【1】 津波前の自宅の場所

【2】 あの日、私は海岸の作業所でわかめ裂きの仕事をしていました。

「まもなく三時のお茶っこだなア」

「んだなア、あと少しがんばっぺなア」

突然、ゴォー〜ゴゴゴゴ〜と地鳴りがひびき、グラ〜グラ〜、と足元が大きく揺れだしました。

壁はミシミシ、窓はガタガタ。棚からはガラガラと物が落ち、立っていることもできず、四つんばいで外に出ました。

地べたに座り込み、「この世の終わりが」と思うほどの大きな揺れに、恐ろしくて恐ろしくて体がガタガタとふるえました。



【2】 わかめの作業所の風景

【3】 仲間がどうやって浜から逃げていったのかひとつも覚えていません。

私は、すぐ車で家に帰りました。

「あ〜よかったァー、なんにも落ちたりこわれたりしてなかった〜」

ほっとして近所の方と話をしていると

「大津波警報！津波3m・・・」という防災放送が聞こえてきました。

すると、

「津波だァ〜！」

「津波来たぞォ〜！」と高いところから叫ぶ声！



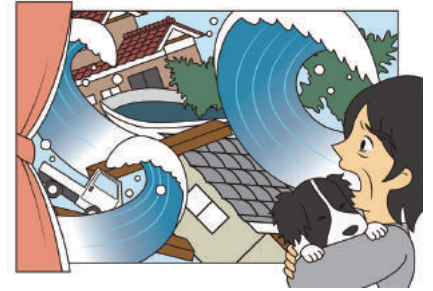
【3】 津波が迫る様子

私は急いで愛犬ポッキーの鎖を外し、ラジオを持って自宅の二階に駆け上がりました。

それはいつも夫と、「おらいまでは津波来ねアがら。明治津波も上がらなかつたもの。二階さ逃げれば大丈夫だ」と話しあっていたからです。ところが！

【4】 窓の外には、もう目の前に大きな波がせまっていました。

「うわーっ津波来たー！ まるでサーフィンの波のようだ！」とぼう然としていると、見る見るうちに、家も車もどんどん流されていき、ついにわが家にもすさまじい勢いで津波がかけ上がり、ガラガラ、バリバリと家を壊しながら、あっという間に波が二階の天井をつき破り、私とポッキーは屋根裏まで押し上げられました。



【4】 迫りくる波

【5】 何度も何度も頭から海水をかぶり、苦しくて苦しくて、

「あ〜ごごで死ぬのがなア・・・」と思いながらも、私はポッキーの首輪をしっかりとつかんでいました。

そのうち少しずつ水が引いてきました。

「ポーちゃん、がんばろうね」

「クーン、クーン」

「ポーちゃん、しっかり」

「クーン、クーン」

「ポーちゃん、ポーちゃん」

だき合っただけ何度も何度も 声をかけ合いました。

そのうち、だんだん寒くなり、歯がカチカチとなり声を出す力もなくなってきました。

しかも腰から下はガレキにはさまれて身動きできません。



【5】 おびえる本人と愛犬

【6】 どれくらい経ったのでしょうか。

気づくと家の外から人の声が聞こえました。

「(恵美子さん) 助けて下さーい！」

「(恵美子さん) 助けて下さーい！」と力をふりしぼってさげびました。

「(男の人) どごだ？どごだア！」

「ごごでーす、ごごです」

ドン ドン ドン！

持っていた棒で、懸命に近くのをたたきました。

「(男の人) あ〜！ごごだなア、オレー一人でアだめだがら、人呼ばって来ながら、がんばって待つてでけろよ！」

「(婦警さん) 武田さーん？武田さんですか」今度は女の人の声です。

「(恵美子さん) 大和田恵美子です。助けて下さい」



【6】 救助の様子

【7】警察・消防・土木作業員の方々に、屋根をこわし、畳を切ってもらい
助け出されました。
あたりはもうすっかり暗くなっていました。
あの女の人の声は婦警さんで、私は八十mも家ごと流されて、武田さんの家の前にいたのです。



【7】救助されたとき

【8】いところが涙声で
「(いところ) 皆さん、本当にありがとうございました、有難うございました。」とお礼を言っている声が聞こえました。
毛布で包まれ運び出された私は、その声で胸がいっぱいになりました。
「(恵美子さん) 助かった。本当に助かったんだ」
二日後、陸前高田市の実家に身を寄せました。
すると実家では、なんと大切な大切な弟が、津波にのまれ、亡くなっていたのです。
遺体安置所へ、火葬場へ、葬式へと、懸命に毎日の生きるための暮らし、年老いた母と、夫を亡くした弟嫁を思うと、私は泣いているヒマのない毎日でした。



【8】救助された後の様子
・実家での生活

【9】避難所・仮設住宅での津波の話、生活の様子
六月になってから末崎町に戻り、碁石コミセンで避難生活が始まりました。
そこでは毎朝、小学生が前に出て「(小学生) いっちにーさんしー！」とみんなでラジオ体操。
そのあと「(男の人) えっ〜と。今日の予定は〜十時から床屋さんをしま〜す」
などと、一日の予定をみんなで確認、
「(小学生) いただきます」の合図で朝食、という避難所暮らしでした。
そして七月には仮設住宅が完成し、そちらに移りました。
仮設住宅で一緒だった九十歳のおばあさんの言葉が忘れられません。
「(おばあさん) 大丈夫、大丈夫。戦争の時のごとく思ったら、一週間もすれば
食べきれねあぐらい食べ物も届ぐし、着るものも貰ったし、家流されだつて なんとがなつから。」
「大丈夫、大丈夫」今でもこの言葉を聞くと心が落ち着きます。



【9】避難所・仮設住宅での
津波の話、生活の様子

【10】地震直後から、自衛隊など 多くの皆様には、身を挺して避難指示や救助、捜索などに奮闘していただきました。
また道路の復旧・倒壊家屋の片づけ・避難所のお世話などなどたくさんの方々の暖かいご支援のお気持ちに生きる力をいただきました。
道路で応援の車に会うたびに、しっかり立ち止まって深々とお辞儀をしたものです。



【10】自衛隊・警察・消防の
活躍に敬意

本当に本当にありがとうございました。
心からの敬意と感謝をわすれません。

【11】あの津波から四年後、私たちは眺めの良い高台に家を建て、夫婦と愛犬とでおだやかに暮らしています。

「(恵美子さん) あの津波で家や物は何もかもなくなってしまったけども、ワンコと一緒に助けでもらって、こうして生きてるもの。みんなに感謝することを忘れないようにしなければね。」

「(夫) そうだなア。ありがたいことだなア」「ワンワン！」

いつも話しています。

その感謝の気持ちで、大変なときも乗り越えることができました。

これからも希望をもって前向きに、大切に暮らしていこうと思っています。

【12】 やつと助けていただいた私がみなさんに伝えたいこと。

津波はまたいつ起こるかわかりません。

どんな時でも、慌てずちゃんと行動できるように

日頃から震災の勉強会や避難訓練に進んで参加してください。

そして、地震の時はすぐ高い所に全力で逃げてください。

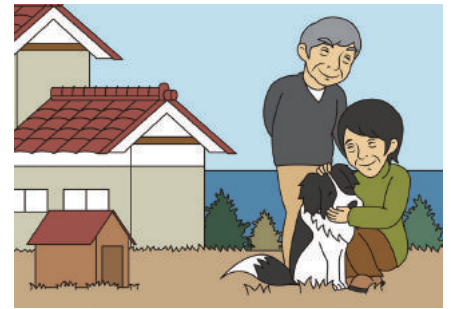
津波はものごとく速いのです。

一人ひとりが防災意識を持つことが、自分や大切な人の命を守るためにとても大切なことです。

一つでも多くのことを覚えていて、子供や孫たちに語り継いでください。

この事を伝えたくて、私は震災の体験談を書いたり

婦人会の集まりや居場所ハウスで、人びとに体験を語っています。



【11】 眺めの良い高台にある
新しい家で愛犬と夫婦で
くつろぐ様子と現在の心境



【12】 今後の震災に対する
心構え・居場所ハウスで
体験を語っている様子



※ 2023年6月11日、十周年記念感謝祭での完成披露の様子

5

居場所ハウスへの声

※「居場所ハウス」は「連携・協調・みんなが主役」のスローガンのもと、誰をもお客さん扱いしないことを大切にしています。そのため、思い出を寄稿して下さった方々のお名前は、敬称を省略させていただきました。

■「居場所ハウス」に来る人たちが少しでも綺麗な花を見て、気持ちが和むことができますようにって願いを込めて、花の手入れをしています。私も花が大好きなので、「居場所」の花が綺麗ね」って言われると誇りに思っております。おばあちゃんたちと地元で伝わるひつつみ汁とか鍋焼きとか、大船渡名物とかね、すぐ作ってくださってと言われると、「はい」って喜んで、お手伝いをする事で生きがいを感じております。親戚・親族がみんな陸前高田なので、震災で身内、親族がみんないなくなってしまうと、自分の心の拠り所を失ってしまい、日々の生活をどうしていいかわからなくなった時に、私の家の近くに「居場所」ができました。とっても救われて、1日、1日が何かが変わっていきました。「居場所」に来る人たちを笑顔で迎えて、みんなで「居場所」を盛りあげていきたいって思った時に、自分から笑顔で、積極的に、小さなことからお手伝いして協力してやる。そういう気持ちが生まれました。潤いもできました。それには、自分自身の生活のリズムを作り、自分の力で楽しんで生きるという変化が私には起きました。

(大和田和子：2015年3月の国連防災世界会議での発言より)

■今「居場所」に来て、ほんとに自分にできることがみなさんに喜んでいただけることが、最高の喜びでございます。私も元々建築の方をやりましたので、「居場所」で物を作る時は、私が中心になってやっております。今後も、異世代交流の「居場所」でございますから、それに相応しいものをこれからは喜んで作っていきたい。……これからは雑草のように踏まれても踏まれても、みなさんに喜んでいただけるように努力したいと思います。

(紀室拓雄：2015年3月の国連防災世界会議での発言より)



植木の手入れ



図書の整理



国連防災会議



倉庫への屋根設置

■キッズデーは「居場所ハウス」を拠点として活動し、伝承文化を伝えることを大事にしております。古い時代、厳しい環境の中から生まれたであろう伝統行事の1つ1つには五穀豊穡や家族の安全を願う、そういう願い、祈り、感謝の心が込められていると思います。そういう行事の由来、時代の背景、そういったものを子どもたちに伝えられたらいいなと思います。……。キッズデーをなぜ、「居場所ハウス」を拠点として行っているかですが、「居場所ハウス」には高齢の方たちが大勢集まって参ります。高齢の方たちと一緒にキッズデーを行うわけですし、伝統文化について近隣の高齢の方たちからお話を伺うということで、世代を越えてみんなで一緒に聞くということで学んでおります。

(菊池則子：2015年3月の国連防災世界会議での発言より)

■多世代交流館居場所ハウス開館10周年になるのを記念して、今年6月に「感謝祭」が盛大に行われました。鈴木軍平理事長はじめ、スタッフのみなさんおめでとうございます。

開館(2013年6月)から10年間に数え切れないほどの事業・活動を一時も休むことなく(盆正月定休日除き)展開・実施してきました。この施設を利用された町民は、約6万4000人にもものぼるとのこと。これは実に驚くべく数字だと思います。素晴らしい偉業を成し遂げました。まさに「継続は力なり」一。

毎月、月間行事案内一覧が配られてきますが、この中に「買物送迎バス」という事業があります。これは地域が抱えている問題点の一つ、自宅付近は店が無いに等しく、食料品を手軽に買い求めることができないとか。交通手段のない高齢者や、そうした方々の不便を解消し、手助けするために企画されたものだと思う。

運行に際しては万一に備え、看護師さんも同行させるという安全安心の福祉事業でもあります。また、施設に併設のスマイル食堂では通常営業のほか、特にも一人暮らし世帯から注文があれば、居場所特製の栄養たっぷりの食事を自宅まで配達する。この事業もなかなかの好評のようです。

これからも居場所ハウスは、地域の皆さんに愛され、地域にとって大切な場所として歩み続けてほしい。

(梅澤直)



キッズデー



買い物送迎

■あんまり何もできないんですけれど、ここに来て皆さんと一緒に騒いで、楽しくやります。おかげさまで癒されております。

(平野精子：十周年記念感謝祭での取材より)

■毎回、来る度に何か覚えていくから、来てよかったと思っています。ここは心の癒しの場所ですよ。何か辛いことがあっても、その日は行くっていう感じが自分でも力になる。そして、みんなと他愛のないことではしゃぐことで、すごく癒されて帰ってきます。

(平野百合子：十周年記念感謝祭での取材より)

■私は「何であそこに行ってるの？」って聞かれた時には、「だって〔家に帰る〕坂道の途中だから、知らないふりはできない」って答えています。手伝って欲しいと誘われるうちが花だと思っていますし、ここに来れば色んな話が聞けるし、皆さんにお世話になってます。

(古澤マチヨ：十周年記念感謝祭での取材より)

■軍平さんとは昔からの知り合いで、声をかけられたのが嬉しくて来しました。震災の頃はヘルパーをやったり、サポートセンターでお年寄りの方にお弁当を作って配達する仕事に携わったりしていました。そういうことがあって、「やってみたいな」って気持ちがあって、ここに来るようになりました。ここは自分がやりたかった福祉にも関わるのがすごくよくて、ずっと居続けたいなっていう気持ちで頑張ってます。

(畑山修子：十周年記念感謝祭での取材より)

■ワカメ作業の合間の「おやつ」(間食)として何か作ってくれないかと頼まれて、じゃあ何か作ってみようかとお菓子を作るようになりました。私は作るのが好きなので、疲れて帰った時でも、「これとこれを作らないといけない」と思ったら、楽しく作ってます。

(佐藤孝子：十周年記念感謝祭での取材より)

■君子さんから声をかけられて、最初のワークショップから参加させてもらってます。ちょっと宣伝してくださいっていうことでチラシを配ったり、立ち上げの時に法人の手続きをしたり、カフェを開く予定があったので盛岡まで何人かで免許を取りに行ったりしました。

(上部博子：十周年記念感謝祭での取材より)

■職場が典人会で、サポートセンターにいたので、ここは最初からお世話になってます。ケアマネの仕事で末崎の人を担当していました。退職した後も、担当していた方の安否が気になりますが、ここに来て皆さんと話をするとう情報が入ってきて「じゃあ、元気なのかな」ってわかりますし、私自身も色々話をしてストレス解消してます。

(C.K.：十周年記念感謝祭での取材より)

■亡くなった母が、ここに来るのが日課になってました。私が母の家に行ってる時も「〔居場所ハウスに〕行って来るから」って言って。母が、あったけ（いっぱい）お世話になったんですね。当時、私は仕事をしていて来れる余裕がなかったので、「私に余裕ができれば、いつか恩返しに行きます」って話をしていました。それで、1年くらい前から来るようになりました。

（鈴木のり子：十周年記念感謝祭での取材より）

■最初に軍平さんから声をかけられたのは妹でした。その時に妹は、自分は時間に余裕がないけど、姉は1人暮らしだから、姉に声をかけて欲しいと返事したようです。私はそれがきっかけでここに来るようになりました。

（近藤京子：十周年記念感謝祭での取材より）

■仮設住宅にいた時、日本赤十字社のノルディックウォーキングに参加するようになりました。仮設住宅がなくなった後、ここでノルディックウォーキングが始まり、参加することにしました。参加しているうちにお昼を食べに来るようになり、そうしているうちに、〔NPO法人の〕会員になりませんか誘われて会員になり、この手伝いをするようになりました。何かある時は「手伝って欲しい」と電話がかかってきて、早起きしないといけない時もあるんですけど、お手伝いをしています。

（畠山富久：十周年記念感謝祭での取材より）



オープンまでのワークショップ



十周年記念感謝祭後



ノルディック・ウォーキング



テント設営

■ 40年間勤めた仕事を退職し、その後8年間勤めた幼児ことばの教室での仕事からも離れ、これからは、今までできなかった趣味で第二の人生を楽しもうとしていた矢先でした。

あの三陸海岸を襲った大津波によって、まわりの環境も一変し、日常生活がストップしてしまっていた状態でした。

そのうちに、いろいろな活動が始まってきたようでした。まず「おたすけ」に行って、七宝まり作りから始まりました。別家の和ちゃんから教わったのがきっかけで、みんなで作ろうと沢山つくりました。と同時に、「居場所ハウス」の動きが気になり、行ってみると「多世代交流の場」といって、高齢者の人達が運営しているところだと知りました。私にも出来そうなことがないかなと探ってみました。ボランティアとして活動に参加したり、来客への接待をしながら話し相手になることから始めました。

図書館担当となり、貸し出しをしたり、本の紹介をしました。けっこう利用してくれる人があり、うれしかったです。

又、週一回の健康サロンに参加しながら、紙芝居や本の読み聞かせなどで補助的にお世話出来たことも楽しかったです。

だんだん、生け花教室や歌声喫茶、陶芸教室、健康体操など、たくさんの人達と出会う機会が多く、居場所に集まることが楽しくなりました。初めての生け花教室では、草月流の基本を知ることができました。歌声喫茶では、一人では歌えない曲をみんなの力を借りながら、懐メロや童謡、など思い出の歌を楽しく歌っています。

ところが二年前、体調をくずしてしまい、入院生活をおくった後自宅での静養をよぎなくされ現在に至っています。ここで又、居場所の食堂のお世話になり、毎日弁当を届けてもらっています。農園で育てた野菜をふんだんに使い、果物や魚肉も入ったバランスのとれたお弁当は、毎日の楽しみです。

最近体調の良い日は、送迎してもらいながら居場所に行き皆さんといろいろな会話するのが楽しみです。

十年続いた居場所ハウスをこれからも、地域の活力として継続して行ってほしいです。これからは若い人達にもどんどん運営にたずさわり、老若男女誰もが出入りしやすい居場所ハウスになってほしいと願っています。

(田畑美和)



生け花教室



子ども会での紙芝居の読み聞かせ

■「居場所ハウス」設立十周年を迎えられました事、大変おめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

素晴らしい運営理念の下、朝市や食堂、お買い物バス等、多岐に亘る活動がされておりますが、ここに至るまでの間には相当のエネルギーが費やされた事と思います。地域のニーズに寄り添った心尽くしの運営には、敬服するばかりです。

私的な用件や趣味の集まり、当館の事業でお邪魔することがありますが、そこにはいつも快く迎え入れて下さるスタッフの皆さんの優しい心が流れていて、フッと行きたくなる魅力ある場所と感じていました。

東日本大震災により、かつての仲間とバラバラになり、更には、仮設住宅の自治会から離れて心の拠り所がなくなった折の当館の設立は、私には救いの神のような存在でした。

以前には、「居場所っこクラブ」での小学生との交流、「花いちもんめ」のゲームを童心に帰って夢中になつて遊んだり、焼き芋大会を楽しんだりしました。生け花室では与えられた花材の特徴を活かして、作品を創り上げていく楽しさを味わいました。新型コロナウイルス感染拡大の為に中止になっていた歌声喫茶が復活し、思いっきり歌えるようになった事は嬉しいです。こんな機会を与えて下さっている「居場所ハウス」には、感謝の気持ちで一杯です。

年齢を問わず、たくさんの方との出会いによってネットワークが広がり、刺激を受け新鮮な気持ちになれる事は、有難く、また、とても大切な事だと感じ入っています。

初めて当館にお邪魔した時の事、目に入つたのは昭和初期に造つたと思われるグランドピアノでした。出入口付近の左側の土間に置かれていました。ウー大変！ ピアノが可哀想！ 一瞬そう思いました。型は古いが弾いてみると音量があり、調律して壊れている部分を修理すれば立派なピアノによみがえると思えました。その為の予算どうするか…。東京在住の綾川正子さんに相談したところ応じて下さったのです。ところがそのピアノは預かりもので、いつ返却になるか分からないと言うのです。頻りに演奏会が行われている様子を、調律された気持ちの良い音で演奏して欲しいという結論のもと、綾川さんに無心した訳です。きれいに磨き上げたピアノはほどなくして畳の上に置かれ、安心したのでした。

東京在住の方・綾川正子様は震災直後から山岸仮設団地全体に支援して下さいった方で、本当にお世話になった恩人であります。「困った事があつたらご相談下さい」のお言葉に、甘えてしまいました。当館には今も尚、ご支援が続いているようで、豊かな熱意と善意には感謝してもしきれない思いであります。本当にありがとうございました。

(櫛引勝代)



「居場所っこクラブ」での花いちもんめ



グランドピアノを弾く子ども

■健康で安らかに長生きを

多世代交流館居場所ハウス設立十周年おめでとうございます。

毎週水曜日は、貴居場所ハウスで実施している「健康サロン」に楽しく夫婦で参加させていただいております。おかげさまで新型コロナにも感染せず元気に過ごしておりますことに感謝申し上げます。

東日本大震災後、お茶のみで親しくしていた隣り近所がばらばらになり、途方に暮れていました。そんな時、社会福祉法人典人会の熊谷君子さんの呼びかけで新しくできた「居場所ハウス」で健康で安らかに長生きする教室に参加しませんかとのお誘いがあり、下記の教室に早速参加させていただきました。

○平成 25 年 6 月 6 日

「認知症を正しく理解しよう。」講師：社会福祉法人典人会 内出幸美氏

○平成 25 年 6 月 20 日

「高齢者の地域貢献」講師：社会福祉法人典人会 熊谷君子氏

○平成 25 年 7 月 4 日

「脳活性化ゲームで認知症予防」講師：京都府 NPO 法人認知症予防ネット 福井恵子氏

○平成 25 年 7 月 18 日

「心と体の健康講座」講師：千葉県旭神経内科リハビリテーション病院院長 旭俊臣氏

○平成 25 年 8 月 1 日

「脳が目覚める健康講座」講師：東京都くもん学習療法センター 森園孝氏

○平成 25 年 8 月 22 日

「あなたが主人公」講師：社会福祉法人典人会 熊谷君子氏

以上 6 回にわたる学習で、いつでもどこでも楽しく脳を元気にする生活習慣に変えれば、125 歳まで生きられることを学びました。

100 歳長寿の皆さんに共通していることは、感謝の気持ちを常に持っていること。「健康だから幸せ」から「幸せだから健康」に。高齢化社会になり、健康長寿にみんながなれば、その分医療費の削減に寄与することになり、元気に長生きすることは社会貢献なのですと。

学習会は好評のうちに終了しましたが、このまま別れるのは勿体ないと、学習した仲間から声上がり、居場所ハウス館長鈴木軍平さんのご配慮で「健康サロン」として新たに再出発いたしました。毎週水曜日欠かさず開催され、おかげさまで楽しく参加させて頂き今日に至ります。

誠にありがとうございます。益々のご発展を祈念いたします。

(菊池平八郎・和子)

■ライブをさせていただきました。

とれたての秋刀魚を焼いて食べたこと、庭から満月を眺めたこと、机を囲んで笑いあったこと。どの瞬間をとっても、かけがえのない温かい時間でした。居場所ハウスは遠く離れたボクにとっても大切な居場所です。あなたとボクの居場所が100年続きますように…。

(稲田貴久)

■稲田さん他仲間と震災復興支援で2014年7月にお伺い致しました。君子さん始め皆さまとは初対面でしたのに、とても温かく迎え入れて下さり感謝しかありません。

その頃は私達も「居場所ハウス」のような場を作りたいと考えていて。

震災復興支援の想いでしたが、かえって元気・勇気をいただきました。

皆さまの益々の笑顔とご発展を願っております。その節は、ありがとうございます。

(磯部和美)

■震災支援で陶芸教室を開催。中村純代さんの紹介で。

水平な世界がありました。高齢のみなさんが役割を持ち、目を輝かせて動いている。私も高齢者なので、これからの生きるための指標です。

(馬場咲夫)

■母が介護施設に入居後、日中ひとりで過ごすことが多くなった父。そんな父の社交の場になればと、連れて行きました。徒歩で行ける場所なので、足腰の健康維持にもなればと思いました。

その後、コロナ禍のため日本へ帰省することも難しくなり、その間に父も亡くなってしまいました。結局、居場所でのランチが、父との最後の夕食になってしまいました。今でもとても懐かしく思い出します。

(S:ベルギーより)



絆コンサート



深大寺陶芸教室

■多世代交流館居場所ハウス様が設立10周年の節目をお迎えになられたこと、誠にありがとうございます。この10年間、活動を牽引して来られた鈴木軍平館長をはじめスタッフの皆さま方のご尽力に心から敬意を表します。

居場所ハウス様のイベントのお手伝いに時々参加させていただきました。「周年イベント」「感謝祭」「鯉のぼりまつり」「朝市」「子ども広場」など。毎回感じるのは、地域の方々のご協力とご参加、特にもご高齢な方々のパワーがすばらしいなあという事です。コロナ禍が落ち着きを取り戻してきた現在、そしてこれから、地域における「多世代交流」はとても重要な課題だと感じています。その実現の場として、今後益々のご発展をご祈念申し上げます。

(菅原圭一)

■カリタス大船渡ベースのボランティアでイベントに参加しました。

私が居場所ハウスの皆さまにお世話になったきっかけは、カリタス大船渡ベースでのボランティア活動です。何度か大船渡で活動し、ある年、初めてGWに訪れました。居場所ハウスでは鯉のぼり子どもまつりのお手伝いをさせて頂きました。居場所ハウスの皆さまに温かく迎えて頂き、それ以降、毎年GWには大船渡を訪れ、居場所ハウスの皆さまにお世話になりました。

鯉のぼりまつりの私の担当は何故かいつもホヤ釣り、祭りが始まるとホヤ釣りの周りには子どもたちが集まり、一生懸命ホヤを釣り、釣り上げたその笑顔は今も忘れられません。

私がホヤを初めて食したのは、何十年も前、東北地方を旅した時、旅館で出されたのですがなんじゃこれ？ 口にあいませんでした。カリタス大船渡ベースでもホヤの差し入れがあり何度か口にしましたが、やはり口にあいません。ところが、まつりで残ったホヤを居場所ハウスの方が料理して出してくれたのです。好きでないホヤですが折角ですから、口に咬んだとたん、なんじゃこれ！！美味しいじゃないか。塩加減が絶妙。いっぺんに大好きになりました。居場所ハウスの皆さま、私をホヤ好きにしてください、ありがとうございます。でも残念ながら関西ではホヤの認知度は皆無、スーパーでも鮮魚店でも見ることはありません。ホヤを食べに大船渡に行くぞ~~~~。

私が大船渡を訪れる度、被災された皆さまと悲しみ、喜び、感動を共に味わえ、生きる励ましを与えられたのは私の方だと感謝し、日々の生活の励ましとなっています。鈴木館長様はじめスタッフの皆さまありがとうございます。

居場所ハウスの皆さまの活動が、語り草として後世の人々に語り継がれ、生きる喜び、減災に役立つことを願ってやみません。

皆さまの健康と、活動が末永く続き幸多かれんことをお祈り申し上げます。

(岩本稔)



子どもの日・鯉のぼり祭り



子どもの日・鯉のぼり祭り

■カリタス大船渡ベースからのボランティア

居場所ハウスのみなさま、オープン10周年おめでとうございます。

私が1番印象に残っているのは、テントを張る時に、漁師さんならではのロープの結び方をなさっていたことです。ぎっちり結ばさっているのに解くのは簡単でとても驚きました。「漁師の技だべ」と仰った笑顔が目には浮かびます。

そして、みなさん、お年のわりにとても力持ち。土嚢の袋やテントの重いポールを軽々運んでおられたことにも驚きました。

今年の2月に、オープン時間前に立ち寄った時に、黙々とモップがけをしている高齢男性がいらっしゃいました。

畑作業をするのも、冬の薪ストーブのための薪割りも、みなさん居場所ハウスのために、心をこめて尽力なさる姿に心打たれます。

竹を切ってきて七夕飾り、秋には焼き芋を作ったり、干し柿を作ったり、「この辺りではピザは珍しいから」とピザの販売をしたり、緊急事態宣言の時には無人販売コーナーを作ったり。

いつもいつも地域の方々が喜ぶことを考え、アイデアを実行していて素晴らしいです。その一つ一つは容易ではなかったと思います。

信念があるところに道が通ずると、居場所ハウスの活動を見て思います。

ある時は子どもたちが4、5人いてゲームをしていました。ある年の3月、春から離れ離れになる若者たちが、居場所ハウスの遊びに来ていて、ただただ外を2人で名残り惜しそうに歩いていました。

そして、何ととっても盆踊りが毎年の楽しみでした。気仙甚句囃子を踊れる貴重な機会でした。子どもたちがすいか割りを楽しむ様子も夏の趣がありました。

暮らしのニーズと四季折々の暮らしの愉しみを地域に提供する活動を続けておられ、この10年の1日1日が積み重なり、多くの方々の居場所になっています。私自身、居場所ハウスにふらりと伺い、いっぱい元気を頂きました。

地域の方々が
地域の方々のために
思いやりの活動が
居場所ハウスで、この10年紡がれました。
これからも紡がれていきますように。
これからもよろしく願います。
また、遊びに行きます！

(大河内愛)

■ 2011年から大田仮設集会所、末崎地区公民館で復興支援 IT ボランティア活動に参加して何となく知り、オープニングイベントに参加しました。

ふれあいキッズデー、夏休みものづくり教室、IT ボランティアの学びと交流の場などで楽しませていただきました。スタッフやお助け隊のみなさまにたくさんお世話になり、冥土の土産にさせていただきます。

(丸山修)

■ KK2 (一般財団法人 AVCC が運営する民設民営のデジタル公民館事業) に参加して訪問したこと

ふらりと訪れても一人にしてくださる又は黙って軍手を差し出され作務が促される等、普段の心地よい「居間」を感じます。集う人にも支える人にも居心地の良さを感じさせる何かがあるからこそ人々をここへ通わせるのだと思います。10周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

(葛西章広)

■ KK2 (霞ヶ関ナレッジスクエア) の IT ボランティアで

特に鯉のぼりまつりで地域の方と触れ合う機会があって、楽しかった。

(市川有宏)

■ デジタル公民館まつさき活動で居場所ハウスの存在を知りました。末崎に行った際に必ず寄る場所になっています。昼食等安価で美味しいです。

鯉のぼり祭りも見学のつもりで行きましたが、いきなりボランティア参加となったり、末崎地区の人とフレンドリーに過ごせるところが良いです。

今はコロナ禍で行けていませんが、6月には行きたいと思っています。

(藤田朋弘)



竹とんぼ作り



子どもの日・鯉のぼり祭り

■ 「地域おこし協力隊」の活動の中で知りました

「居場所ハウス」に最初、どのようにして来たのか、思い出すことが出来ませんが。「地域おこし協力隊」として移住してきた私に興味を持って下さり、受け入れていただくことで、自然に活動拠点のひとつになっていきました。

「居場所ハウス」は、地域の方々が集まって、知恵を出し合い、各々が役割を担い協力して、居場所を創り上げていこうとするところでした。そこに集まる方々の姿に感銘を受けて、自分も大船渡で何が出来るのかを考える良いきっかけを与えて下さいました。

仕事の合間をぬって（サボって）よくお邪魔したり、ご飯を食べに行ったりと、大変お世話になり、色々な思い出を作らせていただきました。最後に覚えているのは、外国から視察に来られた方々に堂々とプレゼンする軍平さんの姿です。とてもカッコいいなと思いました。

今後も大船渡との関わりを大切にして、機会を見つけて遊びに行きたいと強く願っています。どうぞお元気で。また会えることを楽しみにしています。

（下地悠太）

■ 安心して過ごせる『居場所』を創るには、建物だけでなく、みなさんの気持ちと努力が不可欠だったのではないのでしょうか。

そんなみなさんが地域の宝物です！

あったかい『居場所』です!!

（森大樹）

■ 居場所ハウスのDVDを見せていただきました。皆様が、生き生きと、ご自身のできることを一生懸命にされている。おひとり、おひとりのご尽力、日々の努力の賜物ですね。人と人とのつながり、いいですね。分かち合い、共有するものがあるって、いいですね。4年前に友人に「末崎に行こう」と言って、案内してもらいました。夕方4時頃だったと思いますが、軍平さんがていねいに対応してくださいました。居場所ハウスと交流できたことを嬉しく思っています。これからの発展をお祈りします。

（鈴木雅子：居場所ハウスへの手紙より）



歌声喫茶



看板設置

■ 救い（支援）に来て、救われた。

岩手県任期付職員として、大船渡市役所で3年間復興の仕事に就きました。

埼玉との二重生活でお金もなく、車もない生活。土日は、することもなく悶々とした時間を過ごしていました。

ご縁があり、居場所ハウスに通うようになって私の休日がぱっと明るくなりました。そば打ち体験や煮玉子作りは今も役に立っています。

居場所ハウスのスタッフの皆さんの温かいおもてなしには感謝しかありません。

救われたのは私だったのです。

離任後も毎年訪れていますが、変わることなく笑顔で迎えていただいています。

これからも末永くよろしくお願いいたします。

(田村和久)

■ 復興支援で末崎町仮設住宅に住んだご縁で

よそ者が支援に来たのに、分け隔てなく暖かく受け入れていただき、また、楽しくイベントにも参加させていただき、なんどでもお邪魔したくなる、ホッとする居場所になりました。

ごはんも、おしゃべりもとっても楽しかったなあ。

(菅原淳司)



朝市



クルミむき



子どもの日・鯉のぼり祭り



子どもの日・鯉のぼり祭り



※ 2017年4月から2021年3月まで、夕方の時間を活用して、一般社団法人「子どものエンパワメントいわて」による「学びの部屋」(2018年4月から「学びの時間(とき)」と名称変更)が行われていました。「学びの部屋」は震災で学習環境を失った子どもたちが自学自習するための場所で、仮設住宅の閉鎖に伴って「居場所ハウス」に場所を移して継続された活動です。色紙は、2021年3月末、「学びの時間」が終了する時に、子どもたちが書いてくれた寄せ書きです。

編集後記

合同会社 Ibasho Japan 代表 田中康裕

「居場所ハウス」はオープンからの10年間に、震災復興、高齢社会への対応、地方創生などさまざまな観点から注目されてきました。いずれの観点も大切なのは言うまでもありませんが、ここでは編集後記として、「居場所ハウス」から教わった日常の場所としての豊かさについて書きたいと思います。

■参加するのではなく居合わせる

お茶を飲んで休憩したり、食事をしたりしている人。話をしたり、冗談を言って笑い合ったりしている人。生け花、手芸、絵手紙、歌声喫茶、体操などのプログラムに参加している人。ピアノを弾いたり、ゲームをしたりしている人。朝市などで何かを売ったり、買ったりしている人。運営に対して何らかの役割を担ったり、協力したり、差し入れしたりしている人。この冊子を編集するためにこれまで撮影してきた写真を見直すことで、「居場所ハウス」への関わりにはさまざまなかたちがあることに改めて気づかされました。さまざまなかたちでの関わりができるのは、「居場所ハウス」が、運営時間内であればいつでも訪れることができ、いつでも誰かがいてくれる場所になっているから。みなが同じ会話やプログラムに参加することが求められない場所になっているから。

いつの頃からか、このような緩やかな「居場所ハウス」の姿は、「参加するのではなく居合わせる」と表現するのが相応しいと考えるようになりました。薪ストーブを何となく囲んで暖をとっている人たち。テーブルを囲んで、クルミむきや椿の種の殻むきをしている人たち。大人の周りで、勉強したり遊んだりしている子どもたち。いずれも「居場所ハウス」らしい光景です。日常の場所としての豊かさの根本は、このような「参加するのではなく居合わせる」にあり、はじめにあげた震災復興、高齢社会への対応、地方創生などは、日常の積み重ねの結果として事後的に浮かびあがってくる効果だと考えています。

「参加するのではなく居合わせる」は、運営に関わる側にとっても意味をもちます。「居場所ハウス」は多くの人で賑わう時間帯もありますが、逆に、訪れる人がいない静かな時間帯もあります。都合のよい話かもしれないかもしれませんが、そういう時には誰かが来てくれること、たとえ話をしなくても居てくれること自体ありがたいことを実感しました。単に来訪者の人数が増えて嬉しいというのではなく、誰かが居てくれることだけで力をもらえるということ。以前、お世話になった方から伺った「地域の場所では運営する方もボランティアだけど、来る方もボランティア」という言葉を身をもって実感できたように思います。

■誰かの役に立てること

「居場所ハウス」の近くに一人でお住まいの90代の女性がいました。この女性は、自分には何もできないけれど、いつもお世話になるだけでは申し訳ないからと言って、時々、小麦粉や砂糖などを差し入れてくださっていました。

現在、住民同士の助け合いの必要性がしばしば議論されています。この時、一人暮らしの90代という属性の人が、暗に助けられる側になることが前提とされているとすれば、それは「助ける」仕組みであっても「助け合い」の仕組みにならない。これに対して「居場所ハウス」は、年齢に関わらず、自分にできることを通して助ける側になれる可能性の

ある場所。もちろん、人は役に立つか否かという有用性によって評価されるべきでないのは当然ですが、この女性から、そして、「居場所ハウス」からは、年齢に関わらず誰かの役に立てるという手応えを感じるのは喜びであり、生活に張りをもたらすのだと教わりました。

助け合いという点で見落とししてならないのは、この女性は特定の誰かを助けているわけでないことです。特定の誰かに小麦粉や砂糖などを持って来ているのではなく、「居場所ハウス」自体を助けることで、この場所に関わりのある多くの人々を間接的に助ける側になっている。これは、何かを助けることができる人と、何かを助けてもらいたい人とをマッチングさせることで成立する1対1の助け合いのかたちとは異なります。助け合いにはさまざまなかたちがあり得ることも、「居場所ハウス」から教わったことです。

■目の前の人に対応すること

ある日の朝市で、たくさんの野菜などを買った人がいました。家は近くで歩ける距離ですが、坂もあって買ったもの全てを一人で持ち帰るのは大変かもしれない。それを周りで見ている人が、買ったものを一緒に家まで運ぶという出来事を見かけました。目の前で困っている人に対応することが、言い換えれば、属性でなく顔の見える一人ひとりとして相手に対して向き合うことが、助け合いの基本であることを、この出来事は教えてくれます。

目の前で困っている人に対応する状況において、高齢者、つまり、ある属性の人が助けられる側になると限らないのは言うまでもありません。「居場所ハウス」のスタッフがひな祭りで昔ながらの土製の人形を飾るのはどうかと相談していたところ、その話を傍で聞いていた女性が、それなら家にあると言って、何十年も倉庫にしまってあった土製の人形を持って来てくださったことがあります。その時の女性の表情は嬉しそうに、また、誇らしそうに見えたことが今でも忘れられません。

■高齢者という言葉

「居場所ハウス」の立ち上げを提案したワシントンDCの「Ibasho」が掲げる理念のひとつに「高齢者が知恵と経験を活かすこと」があります。この理念の通り、「居場所ハウス」は高齢者と定義される65歳以上の人々の手により10年の運営が継続されてきました。それゆえ、「居場所ハウス」の歩みからは、「高齢者が知恵と経験を活かすこと」という理念が実現された世界のあり方を垣間見ることができるようになります。

逆説的かもしれませんが、それは高齢者という言葉が不要な世界。「居場所ハウス」において、一人ひとは、高齢者でなく、〇〇さん、〇〇さんという固有の名前を持った存在。高齢者という言葉には否定的な意味があるためか、そう呼ばれるのを快く思わない人は多いですが、「居場所ハウス」において、日常的に一人ひとりと接するうえで高齢者という言葉を使う必要はありません。「居場所ハウス」は、一人ひとりの存在を浮かびあがらせることで、高齢者という概念が背景にひいていくような状況を生み出しています。

「居場所ハウス」の歩みを振り返ると、数え切れないくらいの多くの出来事が思い起こされます。ここに紹介したのはそのごく一部ですが、この冊子が「居場所ハウス」の歩みを振り返り、伝えていくことの手助けになればと考えています。

お礼の言葉

特定非営利活動法人・居場所創造プロジェクト理事長 鈴木軍平

多世代交流館「居場所ハウス」は、東日本大震災の被災地である末崎町において、高齢者を中心とする地域住民がより良い人と人とのつながりの復活とコミュニティ再構築のための活動拠点となるべく、米国ハネウェル社の社会貢献として災害復興基金を受けて建設され、末崎町にはなくてはならない居場所となっており、大変有難く厚くお礼を申し上げる次第です。

記念誌の発刊にあたり、「居場所ハウス」の足跡を残し、地域コミュニティ構築と地域活性化の重要性を考慮していただき、地縁団体末崎町公益会様には心強く貴重なご寄附をいただいたところであります。公益会様には心から厚く御礼申し上げます。

東海新報社様、岩手日報社様、河北新報社様には貴重な資料の提供をいただきました。また、カリタス大船渡ベース様、居場所スタッフ、そして、様々なかたちでご支援してくださった皆様から貴重な声をお寄せいただきました。多くの皆様からご厚情と協力を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。田中康裕様には発刊にあたり多大なるご貢献をいただき感謝に堪えません。

結びに、この記念誌が多くの皆様に共感され、今後の様々な活動・運営に少しでも反映・活用され、お役に立てれば幸甚に存じます。

～連携・協調・みんなが主役～



居場所ハウスの歩み

：東日本大震災の被災地・大船渡市末崎町の居場所づくりの10年

編集：田中康裕・鈴木軍平・松澤登美子

発行日：2024年3月1日

発行：特定非営利活動法人・居場所創造プロジェクト

住所：〒022-0001 岩手県大船渡市末崎町字平林54-1

電話番号：0192-47-4049

Eメール：ibasho.iibasho@gmail.com

ホームページ：<https://ibasho-house.jimdofree.com>



ホームページ
はこちら



2015年6月14日、二周年記念感謝祭にて

2023年6月11日、十周年記念感謝祭にて

